

2025

東海大学
入学試験要項
総合型選抜
学科課題型



東海大学 入試担当

建学の精神

創立者松前重義は、青年時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、内村鑑三の研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意して「望星学塾」を開設しました。ここに東海大学の学園の原点があります。

創立者松前はこの「望星学塾」に次の四つの言葉を掲げました。

若き日に汝の思想を培え
若き日に汝の体軀を養え
若き日に汝の智能を磨け
若き日に汝の希望を星につなげ

ここでは、身体を鍛え、知能を磨くとともに、人間、社会、自然、歴史、世界等に対する幅広い視野をもって、一人ひとりが人生の基盤となる思想を培い、人生の意義について共に考えつつ希望の星に向かって生きていこうと語りかけています。

本学園は、このような創立者の精神を受け継ぎ、明日の歴史を担う強い使命感と豊かな人間性をもった人材を育てることにより、「調和のとれた文明社会を建設する」という理想を高く掲げ、歩み続けていきます。

アドミッション・ポリシー

本学の「建学の精神」と教育理念に共鳴する以下の者を国内外から広く受け入れます。

1. 大学で学ぶに相応しい学力を有し、明日の歴史を担う強い使命感のある者
2. 豊かな心と健やかな体の育成に努めると共に、自分の個性を伸ばす意志のある者
3. 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、社会に貢献する志のある者

■ 総合型選抜のアドミッション・ポリシー

東海大学は、「建学の精神」に基づき、専門だけにとらわれることなく幅広い視野をもち、自ら考えることで未来を切り拓く多様な人材の育成を目指しています。東海大学はこのことに共鳴し自ら学ぶ意欲をもった人を求めています。

総合型選抜の入学試験は、「建学の精神」「アドミッション・ポリシー」を十分に理解していただき、学ぶ意欲や姿勢、入学後の対応力を評価する入学試験です。

この入学試験では、受験生の皆さんが今もっている知識や学力を学科試験だけで評価するのではなく、むしろ、皆さんが大学で教育を受けるのにふさわしい能力を備えているか、また、そのための準備ができているかについて、入学後の皆さんへの期待度とともに総合的に判断したいと考えています。そのために、各学科が面接を行い、皆さんの思考力、柔軟性、表現力、発信力などの可能性と基礎学力を含めた志望学科への適性を評価して入学者を選抜します。

■ 学部・学科・専攻のアドミッション・ポリシー

各学部・学科・専攻のアドミッション・ポリシーは、東海大学オフィシャルサイトの各学部のページにある「教育研究上の目的及び養成する人材像、3つのポリシー」に掲載していますので、ご確認ください。

東海大学オフィシャルサイト <https://www.u-tokai.ac.jp/>

所在地（2025年度入学生の各学部・大学院の授業キャンパスは下記のとおりです）

湘南キャンパス

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
電話：0463-58-1211（代表）
文学部・文化社会学部・教養学部・児童教育学部・体育学部・健康学部・法学部・政治経済学部・経営学部・国際学部・観光学部・情報通信学部・理学部・情報理工学部・建築都市学部・工学部
大学院文学研究科・政治学研究科・経済学研究科・法学研究科・人間環境学研究科・芸術学研究科・体育学研究科・健康学研究科・理学研究科・工学研究科（医用生体工学専攻を除く）
① 政治経済学部・経営学部・国際学部・観光学部・情報通信学部の3年次（第5セメスター）以降の科目については、品川キャンパスにおいて授業を行います。
② 工学部医工学科の3年次の科目については、伊勢原キャンパスを利用する可能性があります。

品川キャンパス

〒108-8619 東京都港区高輪2-3-23
電話：03-3441-1171（代表）
大学院情報通信学研究科

伊勢原キャンパス

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143
電話：0463-93-1121（代表）
医学部
大学院工学研究科医用生体工学専攻・医学研究科
① 医学部の主専攻科目以外の科目については、湘南キャンパスにおいて授業を行います。

静岡キャンパス

〒424-8610 静岡県静岡市清水区折戸3-20-1
電話：054-334-0411（代表）
海洋学部・人文学部
大学院海洋学研究科

熊本キャンパス

〒862-8652 熊本県熊本市東区渡鹿^{とろく}9-1-1
電話：096-382-1141（代表）
文理融合学部・農学部
① 農学部の1年次は主として「熊本キャンパス」を2年次以降は主として「阿蘇くまもと臨空キャンパス」を利用します。

阿蘇くまもと臨空キャンパス

〒861-2205 熊本県上益城郡^{かみましきぐん}益城町杉堂871-12
電話：096-382-1141（熊本キャンパス代表）
農学部
大学院農学研究科
① 農学部の1年次は主として「熊本キャンパス」を2年次以降は主として「阿蘇くまもと臨空キャンパス」を利用します。

札幌キャンパス

〒005-8601 北海道札幌市南区^{みなみつわ}南沢5条1-1-1
電話：011-571-5111（代表）
国際文化学部・生物学部
大学院生物学研究科

大学院総合理工学研究科・生物科学研究科：入学後のキャンパス（配属キャンパス）は、研究指導教員の所属するキャンパスとなります。

目次

1	募集人員	A- 2	10	第二次選考	A- 8
2	日程	A- 3	11	課題発表・面接試験について	A- 8
3	選考方法・基準	A- 3	12	試験上の注意	A-11
4	選抜方法	A- 3	13	合格発表・入学手続	A-12
5	出願資格	A- 4	14	試験場案内図	A-13
6	障がい等のある志願者の受験及び修学上の配慮	A- 4	I	学費・諸会費	B- 1
7	学修サポート奨学金について	A- 5	II	奨学金制度	B- 2
8	第一次選考	A- 5	III	個人情報の活用について	B- 3
9	第一次選考 合格発表	A- 7		課題	C- 1

出願・入学手続に関するお問い合わせ先

東海大学 出願・入学手続ヘルプデスク〔2024年7月17日より開設〕
電話 03-6625-0819 平日 10:00～18:00

1

募集人員

下表の学部・学科・専攻のみ募集します。
志望選択は各学部・学科・専攻とも第一志望のみとします。

キャンパス	学部	学科・専攻		略名	入学定員(名)	募集人員(名)
湘南	文学部	文明学科		文明	60	6
		歴史学科	日本史専攻	日史	50	5
			西洋史専攻	西史	50	5
			考古学専攻	考古	30	3
		日本文学科		日文	90	9
		英語文化コミュニケーション学科		英コ	90	9
	文化社会学部	アジア学科		社ア	70	8
		ヨーロッパ・アメリカ学科		社ヨ	70	8
		北欧学科		北欧	60	7
		文芸創作学科		文芸	60	7
		広報メディア学科		広メ	100	11
		心理・社会学科		心社	90	11
	教養学部	人間環境学科		人間	120	16
		芸術学科		芸術	70	9
	児童教育学部	児童教育学科		児童	150	30
	体育学部	体育学科		体育	120	16
		競技スポーツ学科		競技	170	17
		武道学科		武道	60	11
		生涯スポーツ学科		生涯	120	16
		スポーツ・レジャーマネジメント学科		マネ	70	9
	健康学部	健康マネジメント学科		健マ	200	26
	法学部	法律学科		法律	300	30
湘南品川	政治経済学部	政治学科		政治	200	15
		経済学科		経済	200	15
	経営学部	経営学科※		経経	230	20
	国際学部	国際学科		国国	200	30
	観光学部	観光学科		観光	200	20
	情報通信学部	情報通信学科		通信	240	12
湘南	理学部	数学科		数学	80	7
		情報数理学科		情数	80	7
		物理学科		物理	80	7
		化学科		化学	80	7
湘南	情報理工学部	情報科学科		情科	100	10
		コンピュータ応用工学科		コン	100	10
		情報メディア学科		メデ	100	10
	建築都市学部	建築学科		建建	240	20
		土木工学科		建土	100	10
	工学部	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	航空	90	7
		機械工学科		機械	140	10
		機械システム工学科		機シ	140	10
		電気電子工学科		電電	120	10
		医工学科		医工	80	6
		生物工学科		生工	100	7
		応用化学科		応化	100	7
	海洋学部	海洋理工学科	海洋理工学専攻 航海学専攻	理海	130	16
		水産学科		理航	20	2
		水産学科		海水	120	12
		海洋生物学科		海生	80	8
	人文学部	人文学科		人文	180	28
	熊本文理融合学部	経営学科※		文経	130	10
		地域社会学科		地社	100	14
		人間情報工学科		人情	70	11
熊本臨空	農学部	農学科		農学	80	8
		動物科学科		動物	80	8
		食生命科学科		食生	70	7
札幌	国際文化学部	地域創造学科		地域	110	15
		国際コミュニケーション学科		国コ	80	10
	生物学部	生物学科		生生	75	7
		海洋生物科学科		生海	75	7

※「経営学科」は経営学部（湘南キャンパス・品川キャンパス）と文理融合学部（熊本キャンパス）にあります。

注意 合格基準に達しない場合は、合格者数が募集人員に達しないこともあります。

2 日程

学部	第一次選考		第二次選考				入学手続期間
	出願期間	合格発表日	出願期間	試験日	試験場	合格発表日	
文学部 文化社会学部 教養学部 児童教育学部 体育学部 健康学部 法学部 政治経済学部 経営学部 国際学部 観光学部 情報通信学部 理学部 情報理工学部 建築都市学部 工学部	Web登録 2024年 9月 1日(日) 〃 9月 7日(土) 23:59厳守 出願書類郵送期限 2024年 9月 9日(月) 締切日必着	2024年 9月27日(金)	Web登録 2024年 9月27日(金) 〃 10月 4日(金) 23:59厳守	2024年 10月20日(日) 試験開始時間 午前の部 10:00～ 午後の部 13:30～ ※「午前の部」 「午後の部」は、 大学が指定します。 〔詳細な時間・ 場所は当日指示〕	東海大学 湘南キャンパス 東海大学 静岡キャンパス 東海大学 熊本キャンパス 東海大学 札幌キャンパス	2024年 11月 1日(金)	Web登録 2024年 11月 1日(金) 〃 11月14日(木) 17:00厳守
海洋学部 人文学部							
文理融合学部 農学部							
国際文化学部 生物学部							

■ 受験生に対する傷害保険について

本学は、入学試験に際し、試験当日の受験生の偶発的な傷害・災害について、一定の補償をする傷害保険に加入しています。

3 選考方法・基準

「調査書」「志望理由書」「活動報告書」「スポーツ活動報告書（体育学部のみ）」を基本資料に、本学が指定する課題に対する取り組みを評価し、かつ本学で実施する「課題発表〈プレゼンテーション〉」「面接試験（口述試験含む）」を併せて総合的に判断し、下記の者を選考します。

1. 志望する学部・学科・専攻に対する理解と関心をもち、強い目的意識を有すると認められる者。
2. 個性ある学習歴、個性ある経歴をもち、優れた課題解決力、発想力、創造力を有すると認められる者。

4 選抜方法

1. 第一次選考

- ・ 本学所定の書類による書類審査

2. 第二次選考

- ・ 課題発表〈プレゼンテーション〉
- ・ 面接試験（口述試験含む）

5 出願資格

- 東海大学の「建学の精神」・「教育方針」を理解し、東海大学を第一志望とする者で、次の1. ～3. のいずれかに該当する者。
- 1. 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者及び2025年3月卒業見込みの者。
 - 2. 特別支援学校の高等部もしくは高等専門学校の第3学年を修了した者及び2025年3月修了見込みの者。
 - 3. 学校教育法施行規則第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者で、次の(1)～(7)のいずれかに該当する者。
 - (1) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2025年3月31日までにこれに該当する見込みの者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
 - (2) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (3) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で、文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び2025年3月31日までに修了見込みの者。
 - (4) 文部科学大臣の指定した者。
 - (5) 高等学校卒業程度認定試験に合格した者及び2025年3月31日までに合格見込みの者で、2025年3月31日までに18歳に達する者（大学入学資格検定に合格した者を含む）。
 - (6) 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、高等学校卒業程度認定審査規則による高等学校卒業程度認定審査に合格した者。
 - (7) その他、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学が認めた者。

注意 海洋学部海洋理工学科航海学専攻を志望する者は、下記「身体検査基準表」の基準に適合しない場合、「海技士国家試験」の身体検査に不合格となります。

「身体検査基準表」(抜粋) 「船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則」別表第3

検査項目	海技士身体検査基準
視力(5メートルの距離で万国視力表による)	視力(矯正視力を含む。)が両眼共に0.5以上であること。
色覚	船舶職員としての職務に支障をきたすおそれのある色覚の異常がないこと。
聴力	5メートル以上の距離で話声語を弁別できること。
疾病及び身体機能の障害の有無	心臓疾患、視覚機能の障害、精神の機能の障害、言語機能の障害、運動機能の障害その他の疾病又は身体機能の障害により船舶職員としての職務に支障をきたさないと認められること。

6 障がい等のある志願者の受験及び修学上の配慮

障がいや疾病等により、受験及び入学後の授業やキャンパスライフ等で配慮を必要とする志願者は、下記期日までに希望する配慮について申請してください。申請内容を十分に検討したうえで、本学の配慮内容を回答します。なお、検討に時間を要する場合がありますので、可能な限り早めに申請してください。また、申請内容によっては、希望する配慮や支援を講じることができない場合がありますので、ご了承ください。

志願者には本学の配慮内容をご了承のうえ出願していただきます。期日までに申請がない場合には、本学の回答を確認できないうえでの受験となり、希望に沿った対応ができない場合があります。ただし、不慮の事故や急な発病等により、下記期日までに申請ができなかった場合は、速やかにご連絡ください。

※受験時の配慮は必要としないが、入学後の配慮は必要とする志願者についても、同様に申請してください。出願時に申請していただくことで、入学後の修学支援準備を速やかに進めることを目的としています。

■ 申請期日

2024年 7月26日(金)

■ 申請先

東海大学 入試担当
電話 0463-63-4660(直通) E-mail nyushi@tokai.ac.jp〔配慮申請問い合わせ専用〕

*申請に必要な書類等は、上記申請先にお問い合わせください。

7 学修サポート奨学金について

この奨学金制度は、東海大学総合型選抜学科課題型において、奨学金を希望する志願者の中で優秀な者に対し、奨学金を給付するものです。詳細は、本学オフィシャルサイト（8月下旬頃公表）にてご確認ください。

奨学金名	学修サポート奨学金
採用人数	最大150名
給付額	1年次春学期の授業料から30%減免（入学手続時の納付金より減免）
申請方法	Web出願時に「奨学金を希望する」の欄にチェックをしてください。
結果通知	本奨学金の採用者には、合格発表時に結果をお知らせします。
給付方法	入学手続金から給付額を減免します。

※その他の奨学金制度については、p. B-2『Ⅱ 奨学金制度』を参照してください。

8 第一次選考

出願はWebでの手続となります。本学オフィシャルサイトの「Web出願」のバナーから「Web出願サイト」にアクセスし、新規出願手続より、画面の指示にしたがって、出願手続を行ってください。

Web出願サイトURL ▼
<https://www.guide.52school.com/guidance/net-u-tokai/>



1. 出願方法

第一次選考出願期間

〔Web登録〕 2024年 9月 1日(日)～ 9月 7日(土) 23:59厳守
〔出願書類郵送期限〕 2024年 9月 9日(月) 締切日必着

- 1) 「Web出願サイト」へアクセスし、個人情報等の入力や顔写真登録を行ってください。
- 2) 顔写真登録後、画面の指示にしたがい、入学検定料をお支払いください。入学検定料支払い後は、入力内容の変更ができません。入力内容をよく確認してからお支払いください。支払い後、「提出書類チェックシート」の印刷をしてください。
- 3) 出願書類〔所定用紙〕を印刷し作成してください。出願書類（提出書類チェックシートを除く）は、出願登録完了前であっても印刷できます。
- 4) 「宛名ラベル〔所定用紙〕」を貼った封筒に出願書類を入れ、簡易書留で郵送してください。
出願書類は、**出願書類郵送期限までに到着するよう郵送**してください。郵送先は「宛名ラベル」に明記してありますが、次のとおりです。

■ 出願書類郵送先

〒350-0299 日本郵便 坂戸郵便局留
東海大学 出願・入学手続書類受付センター

2. 第一次選考入学検定料 9,000円

「Web出願サイト」にて、お支払いください。
詳細については、上記のURLまたはQRコード等から「Web出願サイト」にアクセスし、確認してください。
第一次選考に合格し、第二次選考に出願する際は、第二次選考入学検定料（23,000円）の支払いが必要となります。

3. 出願書類

出願書類	
1	提出書類チェックシート〔所定用紙〕 ・「Web出願サイト」にて顔写真データの登録及び入学検定料の支払い後、マイページから印刷できるようになります。記載内容を確認のうえ提出してください。
2	志望理由書（600字以内）〔所定用紙①〕 ＊本学オフィシャルサイトよりダウンロードしてください。 ・入学後に学びたいことや、取り組みたいことを含め、本学の学科・専攻を志望する理由を記入してください。
3	活動報告書〔所定用紙②〕 ＊本学オフィシャルサイトよりダウンロードしてください。 ・中学校を卒業した年の4月1日以降の活動について、該当する箇所を記入してください。
4	調査書（最近3か月以内に発行された出身校所定の用紙で、厳封されたもの） ・調査書については、原則として3年次前期または1学期までの成績が記載されているものを提出してください。 なお、それに満たない場合は、直前の成績が記載されている発行可能な調査書（2年次修了時の成績でも可）を提出してください。 ・高等学校卒業程度認定試験合格（見込）の志願者は、合格（見込）成績証明書を提出してください。 ※大学入学資格検定に合格した者を含みます。 ・卒業後5年以内の志願者は、「調査書」を提出してください。 ・卒業後5年が経過しており、出身校での調査書等の保存期間が終了した場合は、下記の証明書を提出してください。 ①卒業後6～20年経過している場合：「卒業証明書」及び「成績証明書」 ※「成績証明書」が発行されない場合は、「単位取得証明書」を提出してください。 ②卒業後21年以上経過している場合：「卒業証明書」及び「成績証明書・単位取得証明書のいずれも発行できない旨を記した出身校の証明書」 廃校・被災等の事情により上記の証明書が提出できない場合は、「東海大学 出願・入学手続ヘルプデスク（p. A-1参照）」にお問い合わせください。 ・外国の学校を修了の場合は、「修了（見込）証明書」及び「成績証明書」を提出してください。また、諸外国の統一試験（大学入学資格試験等）を受けた場合は、「資格証明書の写し」及び「成績評価証明書」を提出してください。 注意 申請から入手までに時間がかかる場合があるため、調査書等については早めに申請手続をしてください。
5	スポーツ活動報告書（厳封されたもの）〔所定用紙③〕 ＊本学オフィシャルサイトよりダウンロードしてください。 ・体育学部志願者の中中学校を卒業した年の4月1日以降のスポーツ活動について記入し、必ず提出してください。 ・スポーツ活動報告書の作成は、出身校または所属クラブに依頼してください。 ・スポーツ活動歴がない場合でも必ず作成し提出してください。 注意 出身校または所属クラブで厳封してください。
6	課題（各学科・専攻より指定されたもの） ・課題内容は、p. C-1以降の『課題』を参照してください。 ・手書きで作成する場合は、「課題提出用原稿用紙（20字×20行）」または「課題提出用レポート用紙（ヨコ書き 25行）」を必要に応じて使用してください（原稿用紙やレポート用紙の指定がある学科・専攻は注意してください）。 ・原稿（レポート）用紙は、本学所定のものに限定しません。市販の原稿用紙や、パソコン等で作成する場合は、A4用紙を使用し作成してください。ただし、以下の項目については、必ず原稿（レポート）用紙1ページ目の1行目に明記してください。 －「課題番号（志望する学科・専攻において、課題が選択できる場合）」 －「タイトル（志望する学科・専攻において、課題にタイトルをつけるよう指示がある場合）」 －「氏名」及び「志望学部・学科・専攻」 【記入例】課題番号：(2) タイトル：「裁判員制度の課題」 氏名：東海二郎 志望：法学部法律学科 ・課題が複数枚にわたる場合は、すべての用紙にページ番号を記入のうえ、左上（タテ書きの場合は右上）をホッチキスでとめてください。

- 注意**
- 1) 出願書類に不備があった場合は、受付けることはできません。
 - 2) 出願後の入学検定料及び出願書類の返還は、いかなる理由があっても認めません。
 - 3) 出願後の申請内容の変更については、いかなる理由があっても認めません。
 - 4) 電話で入学検定料の振込みをお願いすることは一切ありません。
 - 5) 出願書類に不正な記載をした場合、入学後でも合格取消しとなり入学資格を失います。

4. 第一次選考受験票

- (1) 出願書類を本学にて確認した後、受験票が印刷できるようになります。「Web出願サイト」にログインし、マイページから印刷してください。
- (2) 第一次選考受験票を印刷次第、記載項目を必ず確認してください。
 - ・本人に関する項目：カナ氏名、氏名、電話番号、生年月日、性別、出身高校、課程、学科、卒業(見込)・取得年月
 - ・試験に関する項目：受験番号、志望学部・学科・専攻(略名)、選抜方法

注意

- 1) 「試験に関する項目」についての出願後の変更は、いかなる理由があっても認めません。
- 2) 漢字氏名については、原則としてJIS（日本産業規格）で定義される第1水準及び第2水準漢字を使用します。規格にない漢字は、入力することができません。

2024年9月17日(火)までに第一次選考受験票が確認できない場合や、第一次選考受験票記載の「本人に関する項目」の間違いについては、「東海大学 出願・入学手続ヘルプデスク (p. A-1参照)」にお問い合わせください。

9 第一次選考 合格発表

第一次選考合格発表日 2024年 9月27日(金)

第一次選考の可否結果はインターネットのみでお知らせします（大学から通知を郵送することはありません）。合格発表日の午前9時30分より本学オフィシャルサイトで確認いただけます。

第一次選考合格者には、第二次選考出願方法と出願時に必要となる「パスワード」が表示されますので、内容をよく確認してください。

可否に関する問い合わせには、一切応じません。

インターネットに接続できない、または誤操作等を理由とした第二次選考出願期間終了後の出願手続は認めません。

■ インターネット合格発表利用可能期間

2024年 9月27日(金) 9:30～10月20日(日) 23:59

東海大学オフィシャルサイト <https://www.u-tokai.ac.jp/>

10 第二次選考

1. 出願方法

第二次選考出願期間 2024年 9月27日(金)～10月 4日(金) 23:59厳守

「Web出願サイト」にアクセスし、第二次選考入学検定料をお支払いください。
なお、アクセスには第一次選考合格発表時に入手した「パスワード」が必要です。

2. 第二次選考入学検定料 23,000円

「Web出願サイト」にて、お支払いください。
詳細については、p. A-5のURLまたはQRコード等から「Web出願サイト」にアクセスし、確認してください。

3. 出願書類

第二次選考の出願書類はありません。
※入学検定料支払い時に受取る証明書（領収書、受領書、ご利用明細書等）の提出は不要です。

4. 第二次選考受験票

- 入学検定料の入金を本学にて確認した後、2024年10月11日(金)より受験票が印刷できるようになります。「Web出願サイト」にログインし、マイページから印刷してください。
- 第二次選考受験票を印刷次第、記載項目を必ず確認してください。
 - 本人に関する項目：カナ氏名、氏名、電話番号、生年月日、性別、出身高校、課程、学科、卒業(見込)・取得年月
 - 試験に関する項目：試験日、受験番号、志望学部・学科・専攻(略名)、試験場、時間割

注意 1) 「試験に関する項目」についての出願後の変更は、いかなる理由があっても認めません。
2) 試験場及び交通機関等を確認してください。
3) 漢字氏名については、原則としてJIS（日本産業規格）で定義される第1水準及び第2水準漢字を使用します。規格にない漢字は、入力することができません。

2024年10月15日(火)までに第二次選考受験票が確認できない場合や、第二次選考受験票記載の「本人に関する項目」の間違いについては、「東海大学 出願・入学手続ヘルプデスク（p. A-1参照）」にお問い合わせください。

11 課題発表・面接試験について

第一次選考に合格し、第二次選考を受験する際には、以下の点に注意してください。

1. 課題発表の準備について

- 課題発表は、p. C-1以降の『課題』に記載されている情報をもとに準備してください。
当日の発表形式を詳細に指定している学科もあれば、指定せずに各自の創意工夫を期待する学科もあります。記載内容をよく読み、取り組んでください。
- 課題発表時の使用機器について、該当ページに明記されていない場合は、大学では機器の準備を行いませんので注意してください。

2. 試験について

- 試験時間は、原則として「課題発表〈プレゼンテーション〉(質疑応答含む)」及び「面接試験(口述試験含む)」を合わせて25分程度です。
- 「模造紙・ポスター」等を用いての課題発表が指定されている場合は、大学でマグネットを準備しますが、使用個数が多い場合は、各自準備してください。
- パソコンを用いて発表する場合は、データの消失や機器の不具合等、万一の場合に備えて、発表されるものと同じ資料（印刷したもの）をあらかじめ準備してください。
- 資料等を用いて発表する場合は、大学は回収をしませんので、各自必ず持ち帰ってください。
- 面接試験（口述試験含む）では、本学に対する志望動機等についての一般的な質問と学部・学科・専攻に関連ある基礎学力・基礎能力についての口述試験を行います。口述試験の内容は次のとおりです。

■ 口述試験要領

学部	学科・専攻		口述試験内容
文学部	文明学科		地理・歴史・現代社会・現代文に関する基礎知識（主として志願者が興味や関心を持っている分野に関すること）について。
	歴史学科	日本史専攻	日本史の基礎用語に関する知識を問う。
		西洋史専攻	西洋史の基礎知識（世界史探究の教科書の範囲内）に関する人物、地名、事件、年代等について。
		考古学専攻	日本史または世界史のいずれか選択した1科目のうち、考古学に関連する基礎知識（高校の教科書の範囲内）について。
	日本文学科		国語の基礎学力（音読・基礎知識等）及びこれまでの読書経験や作品から得た感動について。
	英語文化コミュニケーション学科		英語の基礎学力（英文の基礎知識・音読・読解）及び英語による自己表現について。
文化社会学部	アジア学科		アジアの地理・歴史・社会・文化に関する基礎知識（主として志願者が興味や関心を持っている地域・分野に関すること。高校の教科書レベル及び新聞やテレビのニュースで報道されている内容等）について。
	ヨーロッパ・アメリカ学科		ヨーロッパ及びアメリカの文化・歴史・社会に関する基礎知識（主として志願者が興味や関心を持っている地域・分野に関すること）について。
	北欧学科		英語の基礎学力（短文の音読と和訳等）及び北欧の地理・歴史・社会・文化に関する基礎知識（高校の教科書に載っているレベル及び新聞やテレビのニュースで報道されている内容等）について。
	文芸創作学科		日本・世界の文学に関する基礎知識及び表現能力（これまでの読書経験や創作に対する考え方について語り、現在の自分を表現する）について。
	広報メディア学科		英語の基礎学力（短文の音読と和訳等）及び時事問題・時事用語に関する基礎知識について。
	心理・社会学科		英語の基礎学力（文法の基礎知識）、及び志願者が興味や関心を持っている人々の心や社会の問題に関する一般的な知識（新聞やテレビのニュースで報道されている内容等）について。
教養学部	人間環境学科		志願者が興味・関心をもっている環境問題（地球環境・地域環境・自然環境等）や社会問題及びそれが人類や我々の生活に与える影響について。
	芸術学科		音楽・美術・デザイン等、芸術分野に関する基礎知識及び各芸術分野が連携する領域（芸術学科での学びに関係が深い領域）に関する興味や知識について。
児童教育学部	児童教育学科		教育・保育の現在の動向、子どもに関する社会的課題及びそれらに関わる基礎知識について。
体育学部	体育学科		保健体育の教科書に記載されている事項について、保健・体育の分野からそれぞれ1～2問程度。
	競技スポーツ学科		アンチ・ドーピング（フェアプレイとの関連）とスポーツ倫理（ゲーム中の意図的な反則や暴力、審判への無謀な抗議、試合会場内外での暴動等）について。
	武道学科		柔道・剣道を中心とした武道に関する事項について、2～3問程度。
	生涯スポーツ学科		保健体育の教科書に記載されている事項の中から、ライフステージやライフスタイル等とスポーツの関連性及び身体活動・運動と健康の関連性に関する内容について、2～3問程度。
	スポーツ・レジャーマネジメント学科		スポーツ・レジャーに関する事項及び英短文の音読・和訳等について。
健康学部	健康マネジメント学科		健康に関わる基礎知識及び近年注目されている健康課題について。
法学部	法律学科		社会・時事問題に関する基礎的知識について。
政治経済学部	政治学科		英語の基礎学力（読解力・文法）、政治・経済の基礎知識及び政治を中心とする時事問題について。
	経済学科		英語（読解力・文法）、数学（関数やグラフ）の基礎知識、経済の時事問題について。
経営学部	経営学科		英語の基礎学力（短文の音読と和訳）、経営（経営者や企業等）に関する基礎知識及び時事問題について。
国際学部	国際学科		英語による自己アピール、現代世界の基礎知識（主に志願者が興味・関心を持っていること）について。 Self-promotion speech and a discussion demonstrating an understanding of current global issues of the applicant's interest.
観光学部	観光学科		英語の基礎学力（音読・和訳）、社会一般に関する基礎知識及び観光学に関する基礎知識について。
情報通信学部	情報通信学科		英語（読解力・英作文・文法）及び数学（数学Ⅰ・数学A〈数学と人間の活動を除く〉）の基礎知識について。

学部	学科・専攻		口述試験内容
理学部	数学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A〈数学と人間の活動を除く〉・数学B〈数列のみ〉・数学C〈数学的な表現の工夫は除く〉）の基礎知識について。
	情報数理学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A〈数学と人間の活動を除く〉・数学B〈数列のみ〉・数学C〈ベクトルのみ〉）の基礎知識について。
	物理学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び理科（物理基礎・物理）の基礎知識について。
	化学科		理科（化学基礎・化学）の基礎知識について。
情報理工学部	情報科学科		英語（読解力・英作文・文法）及び数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）の基礎知識について。
	コンピュータ応用工学科		英語（読解力・英作文・文法）及び数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）の基礎知識について。
	情報メディア学科		英語（読解力・英作文・文法）及び数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）の基礎知識について。
建築都市学部	建築学科		英語の基礎学力（短文の音読・文法）及び数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）の基礎知識について。
	土木工学科		英語（短文の音読・和訳・文法）及び数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）の基礎知識について。
工学部	航空宇宙学科	航空宇宙学専攻	理科（物理基礎・物理）に関する問題の解き方について。
	機械工学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び理科（物理基礎）の基礎知識について。
	機械システム工学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び理科（物理基礎または化学基礎から選択した1科目）の基礎知識について。
	電気電子工学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び理科（物理基礎または化学基礎から選択した1科目）の基礎知識について。
	医工学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）及び理科（物理基礎または化学基礎から選択した1科目）の基礎知識について。
	生物工学科		理科（化学基礎または生物基礎から選択した1科目）の基礎知識について。
	応用化学科		理科（化学基礎）の基礎知識について。
海洋学部	海洋理工学科	海洋理工学専攻	英語の基礎学力（短文の音読・和訳）及び数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）または理科（物理基礎、または化学基礎、または生物基礎、または地学基礎から選択した1科目）の基礎知識または時事問題から選択。
		航海学専攻	英語の基礎学力（短文の音読と和訳）及び数学（数学Ⅰ）の基礎知識について。
	水産学科		化学（化学基礎・化学）または生物（生物基礎・生物）から選択した1教科及び英語（読解力・文法）または数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）から選択した1教科の基礎知識について。
	海洋生物学科		生物（生物基礎・生物）及び英語（読解力・文法）または数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ）から選択した1教科の基礎知識について。
人文学部	人文学科		地理歴史、公民、国語、英語で学んだ概念、用語、または関連するニュース（主に志願者が興味・関心を持っていること）について。
文理融合学部	経営学科		英語による自己紹介と自己アピール、最近の経営・経済を中心とする時事問題（主に志願者が関心を持っていること）に対する自身の見解について。
	地域社会学科		英語による自己紹介と自己アピール、地域活性化・観光・広報メディア等の本学科に関連する時事問題に対する自身の見解について。
	人間情報工学科		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A〈数学と人間の活動を除く〉・数学B〈数列のみ〉）及び理科（物理基礎または化学基礎から選択した1科目）の基礎知識について。
農学部	農学科		英語（短文の和訳）、農業と環境、化学基礎、生物基礎から選択した1科目の基礎知識について。
	動物科学科		英語（単語や短文の和訳）、数学Ⅰ、生物基礎、畜産から選択した2科目の基礎知識について。
	食生命科学科		英語（単語や短文の和訳）、農業と環境、化学基礎、生物基礎から選択した1科目の基礎知識について。
国際文化学部	地域創造学科		現代の社会における、主に公共及び倫理の基礎知識について。
	国際コミュニケーション学科		英文の音読と読解及び英語による自己アピール。
生物学部	生物学科		英語の基礎学力（短文の音読・和訳）及び理科（生物基礎）の基礎知識について。
	海洋生物科学科		英語の基礎学力（短文の音読・和訳）及び数学（数学Ⅰ）または理科（物理基礎、化学基礎、生物基礎から選択した1科目）の基礎知識について。

12 試験上の注意

1. 試験について

- (1) 試験当日は、第二次選考受験票を必ず持参し、試験場入場時に提示してください。
- (2) 指定された試験開始時間（午前の部 10:00、午後の部 13:30）の10分前までに試験場に入場し、着席してください。
- (3) 試験日、試験開始時間及び試験場間違いの受験は一切認めませんので、第二次選考受験票の記載事項をよく確認してください。
- (4) 試験開始後20分までに試験場にて受付をしない場合は、受験を認めません。
- (5) 試験当日、受験生以外は試験場内に入れません。
- (6) 試験場においては、すべて面接担当教員等の指示にしたがってください。したがわない場合は、退場させることがあります。
- (7) 試験場内では、スマートフォン、携帯電話、ウェアラブル端末、タブレット端末、電子辞書、ICレコーダー、イヤホン、音楽プレーヤー等の電子機器類の使用を禁止します。入場時に必ず電源を切っておいてください。時計としての使用も認めません。辞書、電卓、通信機能等の有無が判別しづらい時計の使用も認めません。

2. 試験当日の持参品

第二次選考受験票、筆記用具、課題発表〈プレゼンテーション〉で使用するもの。

3. 不正行為について

本学では、すべての受験者が公平に受験できるよう入学試験を厳正に実施します。公正な入学試験の実施を妨げる不正行為があったと認められた場合は、以後の受験は認められず、また、当該年度の本学におけるすべての入学試験について無効とします（入学検定料の返還はいたしません）。なお、不正行為については、状況により警察へ被害届を提出する等の対応をとる場合があります。

■ 不正行為と判断される行為

- ・使用を認めていない物品や機器を使用、操作すること。
- ・面接担当教員等の指示にしたがわないこと。
- ・受験生以外の者が、受験生本人になりすまして試験を受けること。
- ・その他、試験の公平性を損なう行為をすること。

4. その他

- (1) 入学試験当日、学校保健安全法で出席停止が定められている感染症（インフルエンザ、麻しん、水痘、風疹、新型コロナウイルス感染症等）に罹患し治癒していない場合は、他の受験生等への感染の恐れがありますので、原則として受験をご遠慮願います。感染症罹患を理由に入学試験を欠席し、試験日翌々日までにご連絡いただいた場合に限り、別日程での受験を認める場合があります。詳細は、本学オフィシャルサイト（8月頃公表）にてご確認ください。
- (2) 本学からの入学試験の実施に関する情報提供は、本学オフィシャルサイトより行います。
- (3) 電車遅延等による、試験当日のお問い合わせは、東海大学入試実施本部にご連絡ください。
電話 0463-63-4630（試験当日のみ連絡可能）

13 合格発表・入学手続

1. 合格発表

第二次選考合格発表日 2024年11月 1日(金)

第二次選考の合否結果はインターネットのみでお知らせします（大学から通知を郵送することはありません）。合格発表日の午前9時30分より本学オフィシャルサイトで確認いただけます。

※合格通知は「Web入学手続サイト」よりダウンロード（印刷）できます。

※合否に関する問い合わせには、一切応じません。

■ インターネットによる合格発表利用可能期間

2024年11月 1日(金) 9:30～11月14日(木) 17:00

東海大学オフィシャルサイト <https://www.u-tokai.ac.jp/>

2. 入学手続

入学手続期間 2024年11月 1日(金)～11月14日(木) 17:00厳守

入学手続はWebでの手続となります。本学オフィシャルサイトより「Web入学手続サイト」にアクセスし、上記の入学手続期間内に手続を行ってください。インターネットに接続できない、または誤操作等を理由とした入学手続期間終了後の入学手続は認めません。

なお、「学費・諸会費」は一括納入となります。

3. 学費・諸会費の返還について

いったん納入した学費・諸会費の返還は、原則として認めません。

ただし、特段の事情により本学への入学を辞退する者は、2025年3月31日(月) 午後5時〔締切日必着〕までに入学辞退手続を完了した場合に限り、入学辞退を認め、「入学金」を除く学費・諸会費を返還します（詳細については、合格発表後に入学手続要項を参照してください）。

なお、いったん納入した入学手続の学費・諸会費のうち「入学金」についての返還は、いかなる理由があっても認めません。

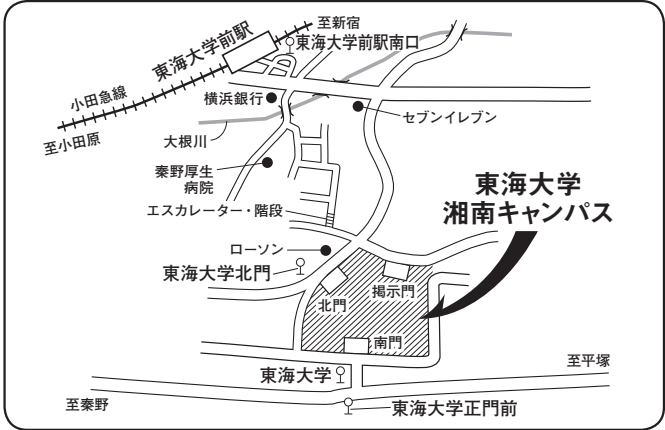
4. その他の注意

- (1) 出願後、現住所を変更した場合は、「東海大学 出願・入学手続ヘルプデスク（p. A-1参照）」にお問い合わせください。
- (2) 指定の期日までに入学手続をしない場合は、入学を許可しません。
- (3) 電話で学費・諸会費の振込みをお願いすることは一切ありません。
- (4) 出願資格のうち、卒業（修了）見込み、高等学校卒業程度認定試験に合格見込みで受験し合格した者で、2025年3月末日までに大学入学資格を取得できなかった者は、合格取消しとなり入学資格を失います。
- (5) 入学年次は、第1セメスター（1年次）とします。
- (6) 出願書類ならびに入学手続上、不正があった場合は、入学後でも合格取消しとなり入学資格を失います。

14

試験場案内図

東海大学湘南キャンパス

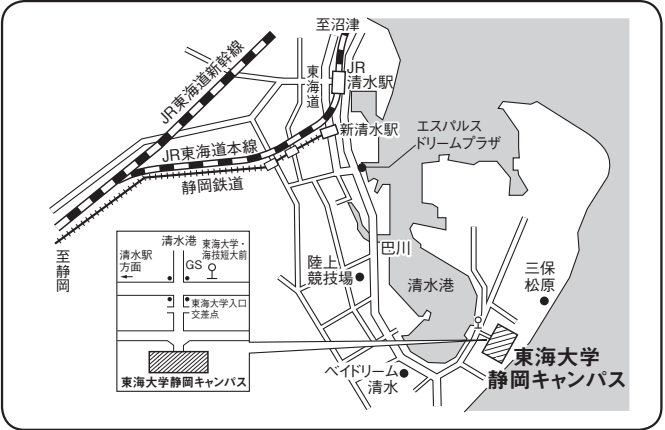


神奈川県平塚市北金目4-1-1 電話 0463-58-1211 (代表)

●小田急線（急行で新宿より約70分、小田原より約25分）東海大学前駅（南口）より徒歩約15分
または、秦野駅行き、下大磯団地行きバス（約5分）にて「東海大学北門」下車すぐ
新宿方面から乗車の場合は、小田原方面行きに乗りしてください。同じホームから行先の異なる電車も発車していますので、行先表示を確認のうえ乗車してください。

●JR東海道線 平塚駅より東海大学行き、または秦野駅行きバス（約30分）にて「東海大学正門前」下車 徒歩約5分で南門に到着（交通事情により時間がかかる場合があります）

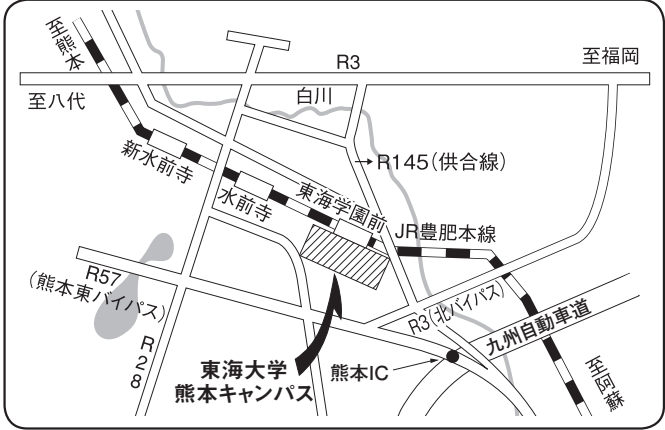
東海大学静岡キャンパス



静岡県静岡市清水区折戸3-20-1 電話 054-334-0411 (代表)

●JR東海道線 清水駅より、西口（江尻口）バス停3番乗り場から東海大学三保水族館行き、三保車庫前行き、世界遺産三保松原行きバス（約20分）にて「東海大学・海技短大前」下車 徒歩約2分

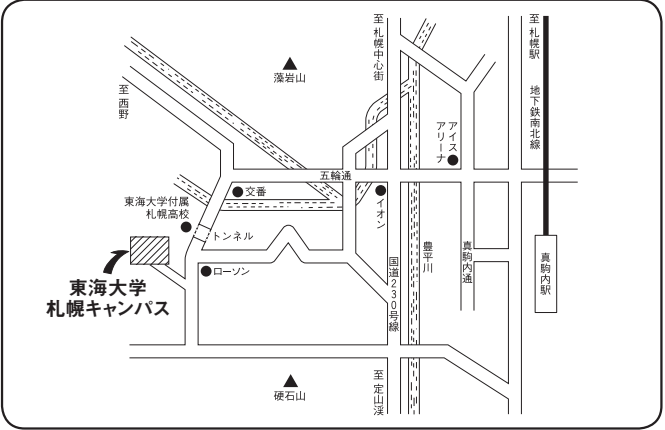
東海大学熊本キャンパス



熊本県熊本市東区鹿渡9-1-1 電話 096-382-1141 (代表)

●JR豊肥本線 東海学園前駅よりすぐ（駅正面）
●九州産交バス 系統番号F1-1またはF1-2にて「東海学園前」下車 徒歩約1分
●自家用車 九州自動車道「熊本IC」より約15分

東海大学札幌キャンパス



北海道札幌市南区南沢5条1-1-1 電話 011-571-5111 (代表)

●地下鉄南北線 真駒内駅（札幌駅より約20分）より、じょうてつバス（南96番または環96番）にて「東海大学前」下車すぐ（所要時間：南96番約25分、環96番南沢入口先回り約25分、環96番中の沢入口先回り約17分）

I

学費・諸会費

2025年度

(単位：円)

学部・学科等		費目	入学手続と同時納付金（春学期）					納付金（秋学期）					総合計	
			学 費				合計	学 費						
			入学金	授業料	実習 実技費	小計		諸会費	授業料	実習 実技費	小計	諸会費		合計
文学部			200,000	608,000	0	808,000	38,700	846,700	608,000	0	608,000	20,500	628,500	1,475,200
文化社会学部			200,000	608,000	0	808,000	38,700	846,700	608,000	0	608,000	20,500	628,500	1,475,200
教養学部			200,000	634,500	0	834,500	38,700	873,200	634,500	0	634,500	20,500	655,000	1,528,200
児童教育学部			200,000	634,500	0	834,500	38,700	873,200	634,500	0	634,500	20,500	655,000	1,528,200
体育学部			200,000	634,500	0	834,500	38,700	873,200	634,500	0	634,500	20,500	655,000	1,528,200
健康学部			200,000	634,500	0	834,500	38,700	873,200	634,500	0	634,500	20,500	655,000	1,528,200
法学部			200,000	608,000	0	808,000	38,700	846,700	608,000	0	608,000	20,500	628,500	1,475,200
政治経済学部			200,000	613,500	0	813,500	38,700	852,200	613,500	0	613,500	20,500	634,000	1,486,200
経営学部			200,000	613,500	0	813,500	38,700	852,200	613,500	0	613,500	20,500	634,000	1,486,200
国際学部			200,000	613,500	0	813,500	38,700	852,200	613,500	0	613,500	20,500	634,000	1,486,200
観光学部			200,000	613,500	0	813,500	38,700	852,200	613,500	0	613,500	20,500	634,000	1,486,200
情報通信学部			200,000	677,000	0	877,000	38,700	915,700	677,000	0	677,000	20,500	697,500	1,613,200
理学部			200,000	677,000	0	877,000	38,700	915,700	677,000	0	677,000	20,500	697,500	1,613,200
情報理工学部			200,000	677,000	0	877,000	38,700	915,700	677,000	0	677,000	20,500	697,500	1,613,200
建築都市学部			200,000	677,000	0	877,000	38,700	915,700	677,000	0	677,000	20,500	697,500	1,613,200
工学部	航空宇宙学科航空操縦学専攻		200,000	827,500	0	1,027,500	38,700	1,066,200	827,500	0	827,500	20,500	848,000	1,914,200
	上記以外		200,000	677,000	0	877,000	38,700	915,700	677,000	0	677,000	20,500	697,500	1,613,200
医学部	看護学科		200,000	689,500	0	889,500	38,700	928,200	689,500	0	689,500	20,500	710,000	1,638,200
海洋学部			200,000	677,000	40,500	917,500	38,700	956,200	677,000	40,500	717,500	20,500	738,000	1,694,200
人文学部			200,000	608,000	0	808,000	38,700	846,700	608,000	0	608,000	20,500	628,500	1,475,200
文理融合学部			200,000	475,000	0	675,000	38,700	713,700	475,000	0	475,000	20,500	495,500	1,209,200
農学部			200,000	672,500	0	872,500	38,700	911,200	672,500	0	672,500	20,500	693,000	1,604,200
国際文化学部			200,000	553,500	0	753,500	38,700	792,200	553,500	0	553,500	20,500	574,000	1,366,200
生物学部			200,000	617,000	※ 1	817,000	38,700	855,700	617,000	※ 1	617,000	20,500	637,500	1,493,200

※ 1 生物学部のうち海洋生物科学科は、実習実技費(乗船実習費)がかかります。(1年次春学期20,000円、秋学期20,000円、2年次春学期20,500円、秋学期20,500円)

学部・学科		費目	入学手続と同時納付金（春学期）							納付金（秋学期）							総合計	
			入学金	授業料	教育 運営費	教育 充実費	施設 設備費	小計	諸会費	合計	授業料	教育 運営費	教育 充実費	施設 設備費	小計	諸会費		合計
医学部	医学科		1,000,000	1,074,000	316,000	100,000	1,050,000	3,540,000	248,700	3,788,700	1,074,000	316,000	420,000	1,050,000	2,860,000	24,500	2,884,500	6,673,200

諸会費 内訳

	春学期					秋学期				総合計
	学園費	学生会費	学生健康保険 互助組合費	保護者 会費	合計	学園費	学生会費	保護者 会費	合計	
医学部医学科	222,000	4,500	18,200	4,000	248,700	19,000	1,500	4,000	24,500	273,200
上記以外	22,000	4,500	12,200	—	38,700	19,000	1,500	—	20,500	59,200

注意

- 1) 文化社会学部心理・社会学科で心理実習を履修する場合には、別途、実習費を徴収します。また、心理実習の履修にあたっては選抜を予定しています。心理実習は、公認心理師試験の受験資格を取得するために大学で履修し単位を修得しておく必要がある科目に含まれます。

2) 工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻への入学生については、上表のほかに
①航空無線通信士受験料（1年次）、航空従事者学科試験手数料（1年次～2年次）等の費用がかかります（参考：2024年度は最低35,000円程度）。
②留学費用として、2～3年次の留学中における授業料（2024年度は約\$114,414相当）や生活費及び渡米費用、航空燃料費等がかかります。その際、訓練の進捗状況、もしくは米国内での物価、航空燃料費上昇及び為替レートの変動により変更・追加費用が発生する場合があります。
③ノースダコタ大学の実機訓練課程履修者全員に対して奨学金制度があります。
※詳細は、入学試験要項 p. B-2 「奨学金制度」を参照してください。

3) 体育学部のうち生涯スポーツ学科は、1年次と2年次に実習費が別途かります。（参考：2024年度は1年次48,000円予定、2年次55,000円予定）

4) 医学部看護学科において、保健師国家試験受験資格を取得するためには、所定科目を履修し単位を修得する必要があります（選抜あり）。所定科目の履修者のみにかかる経費について、別途費用が必要となります。

5) 海洋学部のうち海洋理工学科航海学専攻の乗船実習課程進学希望者及び乗船実習科目の履修者については、上表の他に乗船実習費が必要となりますが、その金額は乗船実習実施年次に決定します。（参考：2024年度 3年次秋学期79,000円、4年次秋学期474,000円）

6) この他に履修する科目等に応じて、実習費を徴収する場合があります。
- 〈諸会費について〉
・学園費は、後援会の入会金・会費、同窓会費、星医学会費です。
・星医学会費は、医学部医学科同窓会の終身会費です（医学科1年次春学期のみ）。
・学生会費（春学期）には、入会金3,000円が含まれています。
・学生健康保険互助組合費は、入会金200円を含め4年間分（医学部医学科は6年間分）です（入学手続時一括納付）。
・保護者会費は、医学部医学科保護者会の連絡費です。

※2年目以降在学中の学費については、諸般の事情及び社会情勢を勘案し、改定することがあります。
※在学中の学費・諸会費については、毎年度春学期分は3月下旬から4月上旬頃、秋学期分は8月下旬から9月上旬頃、各キャンパスの担当部署より学費払込案内書を郵送いたします（伊勢原キャンパスを除く）。
※伊勢原キャンパスの学費・諸会費については、自動口座振替になります。毎年度春学期分は4月頃、秋学期は10月頃、医学部付属病院事務課（財務）より口座振替事前通知書を郵送いたします。
※寄付金に関するお知らせ
教育・研究環境の充実を図るため、任意の寄付をお願いいたしております。ご入学後、改めてお願いをさせていただきますので、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。
■ 寄付金のお問い合わせは下記にお願いいたします。
学校法人 東海大学 募金・寄付金担当
電話 03-3467-2211（代表）

II

奨学金制度

1. 東海大学奨学金

東海大学では、将来ある優秀な学生に対し、本学独自の奨学金を給付・貸与します。奨学金の種類は下表のとおりです。

(下表は2025年度の予定)

奨学金名	内容	種別	奨学金額（給付または貸与額）
【松前重義記念基金】 学部奨学金（1種）	学部学生（医学部医学科を除く）を対象に、前学期までの学業成績、人物等を審査し、特に優秀な学生に対して奨学金を給付します。1年次生は秋学期から、2年次生以降は学期毎に大学が選考します。	給付	学期 20万円
【松前重義記念基金】 学部奨学金（2種）	学部学生（医学部医学科を除く）より募集を行い、前学期までの学業成績、人物等を審査し、優秀な学生に対して奨学金を給付します。1年次生は秋学期から、2年次生以降は学期毎に募集します。	給付	学期 10万円
【松前重義記念基金】 松前重義留学生奨学金（1種）	学業成績（入学者は留学生一般選抜入試、1年次秋学期以降は前学期）、人物ともに特に優れた私費外国人留学生に対して、学費を減免します。学期毎に大学が選考します。	給付 (学費減免)	授業料（学期）相当額 新入生は入学金も減免
【松前重義記念基金】 松前重義留学生奨学金（2種）	学業成績（入学者は留学生一般選抜入試、1年次秋学期以降は前学期）、人物ともに優れた私費外国人留学生に対して、学費を減免します。学期毎に大学が選考します。	給付 (学費減免)	学期 15万円
【松前重義記念基金】 自己研鑽奨学金	文化活動、スポーツ活動、社会活動、ボランティア活動等の各分野において優れた計画をもち、その実現に努力している学生に対して奨学金を給付します。	給付	個人：30万円以内 グループ：50万円以内
【松前重義記念基金】 建学記念奨学金 (建学記念論文)	本学が指定する課題について独創力豊かな論文を提出した学生に対して、審査のうえ、優秀者に奨学金を給付します。	給付	最優秀賞 20万円 優秀賞 10万円 入選 5万円
ワークスタディ奨学金	人物・学業成績に優れ、経済的理由により修学困難な学生に対して、本学内でのさまざまな学内関連業務を行うことにより奨学金を給付します。	給付	月額 2万5千円 (年額30万円)
キャンパス間留学 奨学金	キャンパス間留学が許可され、人物・学業成績ともに優れた学生に対して奨学金を給付します。	給付	28万円もしくは14万円（留学タイプまたは居住形態による） 2万円（短期）
国際交流奨学金	本学と協定を結んだ外国の大学への留学が許可され、人物・学業成績ともに優れた学生に対して奨学金を給付します。	給付	派遣先大学及び留学期間により異なる
工学部航空宇宙学科 航空操縦学専攻 留学奨学金	ノースダコタ大学の実機訓練課程履修者全員に対して奨学金を給付します。	給付	ノースダコタ大学への留学期間中の各セメスターにつき50万円（総額150万円）
医学部医学科奨学金 (1種)	2年次以上の医学部医学科学生を対象に、人物、学業成績ともに特に優秀な学生に対して奨学金を給付します。	給付	年額 120万円（各学期60万円） ※医学部医学科奨学金（2種）・〈ひまわり〉との併用不可
医学部医学科奨学金 (2種)	2年次以上の医学部医学科学生より募集を行い、応募者より人物、学業成績ともに優秀な学生に対して奨学金を給付します。	給付	年額 120万円（各学期60万円） ※医学部医学科奨学金（1種）・〈ひまわり〉との併用不可
医学部医学科奨学金 〈ひまわり〉	学費納入が困難な2年次以上の医学部医学科学生に対して、その援助を目的に奨学金を給付します。前年度までの成績、人物、経済状況を審査します。	給付	年額 120万円（各学期60万円） ※医学部医学科奨学金（1種・2種）との併用不可
佐藤兼蔵貸与奨学金	医学部医学科・看護学科に在籍する学生で家計支持者の死亡・失職等で家計が急変し、修学困難となった学生に対して奨学金を貸与します。	貸与	医学科は年額300万円、看護学科は年額100万円を限度として貸与します。 (無利子、長期返還)
望星奨学金	医学部看護学科に在籍し、健康にして、学業成績、人物ともに優れ、経済的支援を必要とする学生に対して奨学金を貸与します。	貸与	月額 3万円（年額36万円）

※上表奨学金のうち、学部奨学金（2種）・自己研鑽奨学金・建学記念奨学金（建学記念論文）・ワークスタディ奨学金・キャンパス間留学奨学金・国際交流奨学金・医学部医学科奨学金（2種）・〈ひまわり〉・佐藤兼蔵貸与奨学金・望星奨学金は公募し、応募者の中から大学が選考します。募集時期については、入学後にお知らせします。

学部奨学金（1種）・松前重義留学生奨学金（1種・2種）・医学部医学科奨学金（1種）は学業成績・人物・活動内容等を考慮して大学が選考します。

※上表奨学金のほか、大学が指定する学生に対して給付する奨学金に、スポーツ奨学金等があります。

2. 東海大学後援会奨学金

本学には、学生の保護者で組織している後援会という組織があります。天災や火災等で家計が急変したときに後援会が応急的に生活費等を給付する奨学金制度です。

- ・給付金 一時金として5万円または10万円もしくは月額1万円～5万円（最長1年間）

3. 日本学生支援機構貸与奨学金（2024年度実績）

人物・学力基準を満たしており経済的理由により修学困難な学生に対して、奨学金を貸与します。

- ・第一種奨学金（無利子貸与制度）
貸与月額 自宅通学者：2万円、3万円、4万円、5.4万円*から選択できます。
自宅外通学者：2万円、3万円、4万円、5万円、5.4万円*、6.4万円*から選択できます。
*申込時の家計が併用貸与の家計基準に該当する場合のみ選択可能です。
- ・第二種奨学金（有利子貸与制度）
貸与月額 2万円～12万円（1万円単位）から選択できます。
*利子：在学中は無利子、卒業後は年3%を上限とする有利子

※第一種奨学金と第二種奨学金との併用貸与ができます。修学支援新制度による給付奨学金と併せて第一種奨学金の貸与を受ける場合、併給調整として貸与を受けられる月額の上限額が調整されます。

※医学部医学科については、第二種奨学金で12万円貸与者は希望により、さらに4万円の増額貸与を受けることができます。

4. 高等教育の修学支援新制度

非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生に対して、授業料等減免・給付奨学金の支援を行います。

- ・授業料等減免
入学金減免額：年額上限 26万円（1回限り）
授業料減免額：年額上限 70万円
- ・給付奨学金（日本学生支援機構より給付）
自宅通学者：月額上限 38,300円
自宅外通学者：月額上限 75,800円

※住民税非課税世帯に準ずる世帯の学生は、上記の額の2/3または1/3の支給額となります。

※入学手続き時には、所定の金額を納付していただき、入学後に減免額を還付する予定です。詳細については、本学オフィシャルサイトを必ずご確認ください。

5. 地方公共団体・一般育英団体奨学金

地方公共団体（都道府県・市町村）や、企業・財団等でも独自の奨学金制度を設けています（本学をとおして取り扱っている団体約50団体）。

下記の「未来のパイロット」もそのひとつとして取り扱っています。

未来の パイロット	東海大学をはじめ指定する日本国内の私立大学や専門学校のパイロット養成課程に在籍し、成績や英語能力評価等の要件を満たして審査に合格した学生に対し、奨学金を貸与します（東海大学の学生は、本専攻を通じて応募します）。 2023年度実績：5名	貸与	実機訓練費用として500万円の奨学金を一括貸与します（卒業後10年間の返済となります）。
--------------	--	----	--

■ お問い合わせ先

奨学金制度については、東海大学奨学金担当にお問い合わせください。

電話 0463-63-4560（直通）

〔医学部の奨学金については、メディカルサイエンスカレッジオフィス（教学）にお問い合わせください。〕
〔電話 0463-93-1121（代表）〕

III 個人情報情報の活用について

本学で取得した個人情報の利用方法は、以下のとおりといたします。

- ・入学選抜、学生証交付等、出願から入学までの一連の業務とそれらの各種連絡通知及び統計集計（本学における教育改善、学術研究を目的とした利用を含む）。
- ・入学後の修学（履修登録、名簿作成、学業成績等）、学籍（学籍処理、証明書発行、学位記（卒業証書）発行等）、学生生活（奨学生選考、健康診断、各種登録申請、施設利用等）に関する業務とそれらの各種連絡通知及び統計集計（本学における教育改善、学術研究を目的とした利用を含む）。
- ・統計集計結果の公表は、個人が特定されないよう匿名化された情報に限ります。

※上記、一連の業務を外部に委託する場合は、委託業務運営が健全に行われていることを事前に確認し、機密保持の守秘義務を定めた契約を締結して適正に管理・監督いたします（統計処理に当たり、外部の個人情報を活用する、または本学が取得した個人情報を外部に委託し、統計集計を行うことを含む）。

課題

文学部……………C- 2
 文化社会学部……………C- 8
 教養学部……………C-14
 児童教育学部……………C-16
 体育学部……………C-17
 健康学部……………C-22
 法学部……………C-23
 政治経済学部……………C-24
 経営学部……………C-26
 国際学部……………C-27
 観光学部……………C-28

情報通信学部……………C-29
 理学部……………C-30
 情報理工学部……………C-34
 建築都市学部……………C-37
 工学部……………C-39
 海洋学部……………C-46
 人文学部……………C-50
 文理融合学部……………C-51
 農学部……………C-54
 国際文化学部……………C-57
 生物学部……………C-59

課題作成上の注意

課題の内容等について、出願後の追記・修正・添付資料の追加等の申し出は一切認めません。
 出願する際に、再度各学科・専攻が指定する課題の形式を確認してください。

- 注意**
- 各学科・専攻ごとに課題作成における「形式」が異なります。指定された「形式」以外で提出された場合は、評価に影響します。
 - 課題の作成にあたり、ホームページ・参考書の図や資料などを用いたり、他人の文章を引用したりする場合には、必ずその出典（著者名、題名、出版年、ページ等）を明記し、あなたの考えや意見との区別がわかるようにしてください。
 - 課題の作成にあたり、現地調査や団体などを訪れる際は、訪問先に目的を告げ、その目的以外には調査の内容を使用しない旨を必ず説明してください。また、相手や周りの人たちに迷惑をかけないようにしてください。
 - 手書き用の課題提出用紙は、原稿用紙とレポート用紙がありますので、各学科・専攻の指定を確認してください。課題提出用原稿（レポート）用紙は、必要に応じて複写して使用してください。
 - 原稿（レポート）用紙は、本学所定のものに限定しません。市販の原稿用紙や、パソコン等で作成する場合は、A4用紙を使用し作成してください。
 ただし、以下の項目については、必ず原稿（レポート）用紙1ページ目の1行目に明記してください。
 - ・「課題番号（志望する学科・専攻において、課題が選択できる場合）」
 - ・「タイトル（志望する学科・専攻において、課題にタイトルをつけるよう指示がある場合）」
 - ・「氏名」及び「志望学部・学科・専攻」

【記入例】 課題番号：(2) タイトル：「裁判員制度の課題」 氏名：東海二郎 志望：法学部法律学科

- 課題が複数枚にわたる場合は、すべての用紙にページ番号を記入のうえ、左上(タテ書きの場合は右上)をホッチキスでとめてください。

■ 課題

下記の3つの課題から、あなたが入学後文明学科で学びたいことと関連しそうなものを1つ選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 古今東西の思想家の中から1人を選び、その生涯や思想内容についてまとめてください。
- (2) 現代の科学技術の発達、私たちの生活にさまざまな恩恵をもたらしています。それと同時に多くの害悪をもたらしていることも否めません。あなた自身の衣食住などの生活環境を観察し、科学技術がもたらす恩恵と害悪の例を挙げるとともに、意見を述べてください。
- (3) これからの日本は、どのようになっていくのでしょうか。今から50年後におおよそ70歳になったあなたを想定して、その時代の家族・経済・社会の姿について述べ、これから社会として備えるべきことに関して意見を述べてください。

■ 形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）2,000 字～ 2,500 字
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、25 字× 20 行）2,000 字～ 2,500 字
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題を正しく受けとめて、テーマを具体的に絞り込んでいるか。
- ・借り物ではない、あなたらしい考察・理解がなされているか。
- ・日本語として簡潔で論理的な文章になっているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- ・上記課題について、口頭で説明できるように準備してください。
- ・配付資料を用いる際は、A4 用紙 2 枚の「概要」として、自分用を含めて3部準備してください。配付資料には、①氏名、②選んだ課題の番号、③課題のタイトル、④本文の順に記入してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	2 枚程度
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	A4 用紙 2 枚以内で自分用を含めて 3 部

※「①」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

文学部 歴史学科 日本史専攻

●湘南キャンパス

課題

大学における日本史の学びは、ただ暗記するだけでは成立しません。文献や史料を読み解き、新たな発見をとおしてオリジナルな歴史像を描くとともに、その意義を他者に説明することが求められます。

そのため本専攻では、興味や関心に基づいて課題を設定し、その課題を解き明かすための方法を検討して取り組み、そこから得られた成果を、論理的な文章にまとめたり、工夫しながらわかりやすくプレゼンテーションしたりすることができる力を重視しています。

日本史上であなたが関心のあるテーマ（制度、人物、事件など）について、複数の書物（教科書や受験参考書は除く）を読んで、2,000 字程度のレポートにまとめてください。その際、次の点に注意してください。

- ①そのテーマのどのような点に関心があるのか、必ず明記してください。
- ②あなたの考えを必ず明記してください。
- ③(例) にならって、レポート作成に際して活用した文献の著者名・書名・出版社・出版年をレポートの文末にまとめて必ず明記してください。なお、ページを改める必要はありません。また、指定の字数には含みません。
(例) 坂井孝一『承久の乱 真の「武者の世」を告げる大乱』(中央公論新社、2018 年)
神田千里『織田信長』(筑摩書房、2014 年)
- ④インターネット上に公開された文章、図表などをそのまま引用することはできません。

形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）、2,000 字程度、5 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 30 行）、2,000 字程度、2 枚程度
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- テーマ（関心のある制度、人物、事件など）を選択した理由が明確に示されているか。
- 調べた内容だけでなく、あなたの意見も明記されているか。
- 活用した文献が課題との関連で適切なものであるか。
- 誤字・脱字や文法上の誤りがなく、論理的な文章になっているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

提出した課題（レポート）の内容について説明できるように準備してください。準備に際しては課題の内容を、図や表を加えて模造紙（2 枚程度）にまとめ、課題発表の際、それを資料として使いながら説明してください。その際、準備してきたメモなどを見ても構いませんが、原稿の棒読みは避けてください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	必	2 枚程度
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料		

文学部 歴史学科 西洋史専攻

●湘南キャンパス

課題

歴史学科西洋史専攻は、過去の歴史からの学びを根拠に、現代社会に対して自分なりに意義ある提案をできる人間を育成することをめざします。

西洋史の各時代（古代～現代）の中であなたが関心を持っているテーマ（政治史、事件史、社会史、宗教史、経済史、文化史、女性史、民衆史など）について、2冊以上の文献（世界史の教科書、学習参考書、事典は除く）を使って深く調べ、3,000字程度にまとめてください。その際、次の点に注意してください。

- ①テーマを選んだ動機や理由を最初に明記してください。
- ②あなたの考えを明記してください。
- ③結論を書いてください。
- ④使用した文献の著者・書名・出版社・出版年を必ず文末にまとめて（例）にならって明記してください。
（例）芝健介『ホロコーストナチスによるユダヤ人大量殺戮の全貌一』（中公新書 2008年）
ロバート・ジェラテリー（根岸隆夫 訳）『ヒトラーを支持したドイツ国民』（みすず書房 2008年）

形式

- ・必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きのみ：A4原稿用紙（ヨコ書き、20字×20行）3,000字程度
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にしてA4用紙にまとめてください。なお、図表・参考文献は、指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・テーマを選んだ動機や理由が、明確にかつわかりやすく書かれているか。
- ・使用した文献を読みこなし、理解しているか。
- ・単に調べた内容を明記しただけでなく、あなたの意見や考えを論理的に述べているか。
- ・結論は本論の内容に基づいて書かれているか、主観的な感想だけになっていないか。
- ・誤字・脱字がなく、段落・改行や句読点つけがきちんとなされているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は12分程度とし、それに対する質疑応答を8分程度及び面接試験（口述試験含む）を5分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- ・上記課題について、説明できるように準備してください。
- ・課題発表の際、模造紙3～4枚にテーマに関する説明・図・写真・表・地図やデータをまとめ、それを黒板等に貼りつけて資料として使いながら面接者等の前で説明してください。
- ・メモを見ながらの発表は差しつかえありませんが、棒読みは避けてください。
- ・模造紙に作成した資料も評価の対象になります。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	必	3～4枚
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料		

■ 課題

あなたの住んでいる地域（市町村内や、広く見た場合には都道府県内）の遺跡を博物館や書籍、インターネットを使って探し、その遺跡を題材にして次の3項目を調べ、その結果をもとにして、あなたが学んだことや考えたことを、所定の形式に沿ってレポートにまとめてください。

- ①その遺跡はいつごろのもので、集落・古墳・墓・窯跡など、どのように使われたと考えられるのか。周辺に同時代の類似した遺跡はあるか。
- ②その遺跡が作られた時代の特徴はどのようなものと考えられているか。
- ③その遺跡は、なぜその場所に作られたと考えられるか。

遺跡の場所を確認する際には、必ず実際に遺跡を訪問してください。そのうえで、遺跡の立地について、地図中に記録する、インターネットの地図検索サイトを使用するなど、あなた独自の工夫をして確認してください。なお、使用した参考文献（『〇〇県史』、『〇〇市史』、各種歴史関連図書や文献、発掘調査報告書、インターネットサイトなど）について、課題の文末に「参考文献」として必ず明記してください。

■ 形式

- ・必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きのみ：本文（文章）はA4原稿用紙（ヨコ書き、20字×20行）2,400字程度、6枚程度
- ・「参考文献」及び図表や写真については、指定された字数・枚数には含みません。本文とは別にしてA4用紙にまとめて提出してください。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・遺跡・遺物に触れた「実感」が具体的に文章や図・写真などを用いて表現されているか。
- ・調べた諸項目について論理的にまとめられているか。
- ・課題に取り組むうえで抱いた自分の疑問や考え、意見が明確に記述されているか。
- ・参考文献の内容を正確に理解しているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

発表の際には、補助資料として模造紙（2枚以内）に課題の内容をわかりやすくまとめたものを準備しても構いません。質疑応答では、①あなたの調べた課題内容、②関連する基礎的歴史知識（日本史・世界史など、高等学校教科書の範囲）について質問をします。自信をもって答えられるように万全の準備をしておいてください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	2枚以内
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料		

■ 課題

日本語の文学作品（古典・近現代を問わないが、翻訳は除く。また、2000 年以後に発表された作品を主要な題材とすることは不可。）の中から「海」にかかわる作品を選び、その「海」がその作品の中で果たしている効果や表現の特色について、調査や考察をまじえて論じてください。

■ 形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（タテ書き、20 字×20 行）4 枚
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（タテ書き、40 字×40 行）1 枚
- 写真や表は指定された枚数に含みません。【図 1】【表 1】等のキャプション（見出し）をつけ、別紙（A4 用紙）にまとめてください。

※手書きでもパソコン等での作成でも、行数の多少の増減は認めます。参考文献は行数に含めません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 論じた内容を的確に表すわかりやすいタイトルがつけられているか（本題に副題を添えても構わない）。
（例）『土佐日記』における海——都と地方——、「三島由紀夫『潮騒』——海の神話性——」
- 全体の構成が「問題提起（注目した場面についての説明等）」「検証（注目した場面についての解析）」「結論（解析結果と自分の意見及びその証明）」という論理的展開になっているか。
- 特定の文学作品を取りあげ論じつつ、文学や日本語全体にかかわるような大きなテーマが見えるように論じられたか。
- 誤字・脱字、文法上の誤りはないか。
- 作品の読解が的確で客観性を保っているか（自説の証明に成功しているか）。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題発表にあたっては、必ず B4 用紙タテ書きで 3 枚以内の発表資料を 3 部作成し、2 部を面接者等に提出してください。そのほか自由な工夫を期待しています。

※主な評価ポイントは次の通りです。基本的に作品の読解や自説の構成力、発表力を審査します。個性豊かな発表を期待しています。

- ①発表内容にふさわしい資料が作られているか（提示された資料に過不足はないか。パソコン等を使用した場合、効果的に用いられたか）。
- ②資料の構成はわかりやすいか。
- ③発表態度は好感が持てるか。
- ④発表時間を守ることができたか。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	○	大学で準備します。 持参してください。
③パソコン		パソコンを持ってくる場合は、HDMI 端子のケーブルが接続可能なものにしてください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	必	B4 用紙タテ書き 3 枚以内で 3 部（2 部は面接者等に提出）

文学部

英語文化コミュニケーション学科

●湘南キャンパス

■ 課題

AIの急速な進歩に伴い、自動翻訳も手軽に使えるようになってきました。こうした状況の中で、英語を学び、身につけることにはどのようなメリットがあると考えられますか。以下の2点を必ず含めて論じてください。

①自分が実際に体験したことのある例を具体的に説明すること。

②複数の参考文献に書かれていたことを引用して、自分の論点と関連づけること（引用文献を明記すること）。

■ 形式

- 手書きのみ：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）4 枚程度、1,600 字程度
- 使用した参考文献を、原稿用紙の最終ページに記入してください。参考文献が最終ページに収めきれない場合は、最終ページの裏面にも書いて構いません。参考文献は、指定された字数には含みません。なお、インターネット上の情報は参考文献として認めません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 内容が首尾一貫し、まとまっているか。
- 問題意識をもって取り組んでいるか。
- 参考文献を調べ、適切な部分を引用しているか。
- 自分の意見が提示できているか。
- 誤字・脱字がなく、段落・改行や句読点つけがきちんとなされているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「英語による課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- 提出した課題について英語でプレゼンテーション（口頭発表）をしてもらいます。
英語で原稿を作り、発音も含めて発表の練習を重ねたうえで、原稿を見ずに発表してください。
- プレゼンテーション（口頭発表）の後、内容について英語による質疑応答を行います。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で使用できる機器等について		
①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料		

文化社会学部
アジア学科

●湘南キャンパス

文化社会学部

課題

アジアに関してはさまざまなテーマがあります。躍動する東南アジア経済、中国の地域環境、三国志などの歴史群像、韓国の大衆文化、インド映画、中東和平、アジアの言語政策、アジア各地の世界遺産などがその例です。あなたが最も関心を寄せるテーマを1つ設定し、以下の4点が明らかになるようにレポートを作成してください。

- ①そのテーマに関心を寄せるようになった理由
- ②そのテーマを深く理解するために用いた参考文献（本やその他の資料）
- ③調べたことで得られた結果
- ④その結果に対するあなた自身の意見

[注意]

ここでいう「アジア」は、アジア学科のカリキュラムに即して、エジプト・北アフリカ地域を含みます。日本は含まないので注意してください。
説明のため、図表や写真のコピーなどを添付しても構いません。
課題は提出前に自分用としてコピーを1部とり、そのコピーを第二次選考試験日に持参してください。

形式

- ・課題の冒頭にはタイトルを必ず明記し、本文ではまとまりごとに見出しをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙 5 枚程度（ヨコ書き、20 字× 20 行、2,000 字程度）
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙 3 枚程度（ヨコ書き、40 字× 20 行、2,000 字程度）
- ・参考文献は文章・図表と別にして、書名・著者名・出版社名・出版年を明記して A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数に含みません。
- ・図表・写真を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙 3 枚以内にまとめてください。なお、図表などは指定された字数・枚数に含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・あなたの興味や関心、テーマの選択理由が明記されているか。
- ・参考文献を十分に読んだうえで作成しているか。
- ・参考文献が明記されているか、また調べた方法が明示されているか。
- ・調べた結果、どのような知見が得られたのか明記されているか。
- ・あなたの意見、今後の研究の方向性などが明記されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

第一次選考時に提出した課題をそのまま読み上げるのではなく、必ず新たな内容を含めた発表資料を示して発表してください。

発表資料とは、発表内容を模造紙に書いたものや、フリップボード、模型、面接者に対して配付するレジュメ（発表内容の要約）やプリント類のことをいいます。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用する模造紙や資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	3 枚程度
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	3 部
⑤その他	○	フリップボード、模型

※ 「①」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「①」と「④」と「⑤」の組み合わせも認めます。

課題

ヨーロッパやアメリカの地域・文化を理解するための研究旅行計画を立案してください。文化や歴史などについて、あなたなりの視点から旅行の目的を設定し、日程表を作成してください。その架空の旅程を通じて得られるであろう成果について説明してください。

※単なる観光名所の羅列ではなく、現在のあなたにとって重要と思われる見学先を選んで、滞在日数12日以内の行程を組み立ててください。同一都市に連泊しても構いません。また、移動の手段や所要時間についても具体的に考慮してください。

(例) キリスト教をテーマにするなら、カトリックの中心、サン・ピエトロ大聖堂とヴァチカン博物館だけでなく、プロテスタントの史跡を訪ねて、ルターが活躍したヴィッテンベルクの宗教改革博物館に行くなど、幅広い視点に立った計画をたてるのも一案です。

形式

- パソコン等での作成のみ：A4用紙（ヨコ書き、1枚1,000字～1,200字）2,000字程度
- 地図や図表を用いても構いません（途中に挿入しても、最後にまとめてもよい）。原則としてヨコ書きで、形式は自由です。各自でレイアウトを考えてください。ただし、地図や図表を除く字数が2,000字程度となるようにしてください。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 研究旅行の目的が明確で、かつ旅程が具体的であるか。
- 目的に応じた訪問先が設定されているか（とくに複数の訪問先が相互に関連していること）。
- その旅行を通じて得られるであろう成果について、自分なりに考えをまとめているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- 課題発表の際、手持資料として課題のコピー、その他の資料等を用いても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料		
⑤その他	○	ポスター、紙芝居等

課題

北欧に関連するさまざまな事柄（例えば北欧の言語・歴史・文化・社会など分野は問いません）の中であなたが最も関心を寄せるテーマを1つ選び、以下の4項目が明らかになるようにレポートを書いてください。

- ①そのテーマに関心を寄せるようになった理由は何でしょうか。
- ②テーマに関連した図書を2冊以上読んでください（インターネットの情報だけに依存しないでください）。さらに深く知ろうとするために、どのようなことを行いましたか（たとえば、どのような資料を用いて調査したか、どのような人々に接して情報を得たか、どのような体験をするよう努めたか等）。
- ③それによって得られた結果（知識や経験等）は何でしょうか。
- ④その結果に対してあなた自身はどのように考えますか。

形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）5 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、1 枚あたりの文字数は自由）2,000 字程度
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 原稿の最後に参考文献・資料を明記してください。なお、参考文献・資料は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- テーマの選択理由が説得力をもって書かれているか。
- 参考文献や資料がどのようなものか、あるいは調査の方法がどのようなものかがしっかりと説明されているか。
- 調査によってわかったことが明確に示されているか。
- あなたの考えが明確に示されているか。
- 表現や書き方がレポートとしてふさわしいものであるか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題発表での主な評価ポイント

- 第一次選考より深められているか
- 十分に準備をした発表となっているか（資料・時間・発表態度）

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	3 枚程度
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	3 部（面接者 2 部、受験生 1 部）

※ 「①」、「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「①」と「④」、「②・③」と「④」の組み合わせも認めます。

課題

- 下記 1. 2. の 2 つの課題について、所定の形式に沿って作成したものをそれぞれ提出してください。
1. 以下の中から 1 つ選び、1,600 字程度の文章にまとめなさい。
- (1) 夏目漱石の『夢十夜』を読み、その作品の魅力について、作中の表現を具体的に引用しながら語りなさい。
 - (2) 宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』を読んで、作中にちりばめられた象徴について調査・解説しなさい。
 - (3) ゴーゴリの『鼻』を読んで、作中の「鼻」とはどういう存在なのか考えなさい。
2. 以下の中から 1 つ選び、800 字程度のレポートを作成してください。
- (1) あなたがこの半年間で、足を運んで鑑賞した美術展について、その感想や考察をまとめてください（複数の美術展でも可）。
 - (2) あなたがこの半年間に観た映画（アニメも可）あるいは舞台（演劇・オペラなど）について、その考察を 800 字程度にまとめてください（複数の作品でも可）。

形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字×20 行）
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、1 枚あたりの字数は自由）
- ・図表を用いる場合は、文章とは別に A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 共通評価ポイント
- ・必要な情報が、正確な文章で明記されているかどうか。
- 課題 1. についての評価ポイント
- ・指示に従った形で、その人ならではの作品の見方が表現されているかどうか。
- 課題 2. についての評価ポイント
- ・現場に立ち会った者ならではの内容が表現されているかどうか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 10 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 5 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題原稿そのものの音読は望ましくありません。また、課題図書と発表用メモ及び提出した課題文の写し以外の資料の持ち込みは認めません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料		

課題

2023 年 10 月以降の新聞社による報道について、社会的に重要だと思われる記事を選び(ジャンルは自由、複数でも可)、①その内容を簡潔に要約し、②その報道の仕方にかなる特徴や課題があるのかを指摘し、③その特徴や課題について、あなたの考えや意見・提案などを小論文にまとめて提出してください。なお、つぎの点に留意してください。

- ・例として取りあげた記事(新聞のコピーまたは新聞社の Web ページをプリントしたもの ※ Yahoo! News などポータルサイトは不可)を添付してください。
- ・小論文に図表を添付しても構いません。
- ・参考文献(参考記事)を明記してください。

形式

- ・手書きの場合: A4 原稿用紙(ヨコ書き、20 字× 20 行) 4,000 字以内
- ・パソコン等で作成する場合: A4 用紙(ヨコ書き、40 字× 30 行) 4,000 字以内
- ・必ずタイトルをつけてください。
- ・課題文の中の①～③は、中見出しではありませんので、注意してください。
- ・図表・参考文献を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。
※図表・参考文献は小論文の字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・提出した課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- ・課題の中の①～③を踏まえて、論理的に書かれているか。
- ・問題提起と結論が、明確に述べられているか。
- ・感想文にならず、客観的な根拠を示し、自分の主張を明確に行っているか。
- ・誤字・脱字がなく、文章作法を適切に守っているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表(プレゼンテーション)(質疑応答含む)」及び「面接試験(口述試験含む)」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 5 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験(口述試験含む)を 15 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

発表の際、手持資料としてメモを見ることのみ許可します。

【 必: 必須 ○: 可能 ×: 不可 】

第二次選考の課題発表(プレゼンテーション)で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料		

文化社会学部 心理・社会学科

●湘南キャンパス

文化社会学部

課題

私たちが日々暮らしている、この世界には、さまざまな問題*が存在しています。あなたが重要と考える問題を1つ取り上げて、下記の①と②に答えてください（あわせて2,000字程度）。回答にあたって、文献やWebサイト等をよく調べるようにしてください。また、調べたことをまとめるだけでなく、自分なりの考察を加えるようにしてください。

- ①その問題の現状について説明してください。
- ②その問題はなぜ生じる（生じた）のかについて考察し説明してください。問題の背景にあると考えられる、心や社会のあり方に触れるようにしてください。

*ここで「問題」とは、たとえば、学校でのいじめ、性的マイノリティーへの差別、子どもの貧困、少子高齢化等のことです。この4つの例はあくまで例ですので、いずれかを取り上げる必要は必ずしもありません（取り上げてもかまいません）。自分が重要と考える問題を自由に取り上げてください。何を問題として取り上げるかに迷った場合には、次の文献やWebサイトを参考にしてもよいかもしれません（参考にしなくてもかまいません）。

橋木俊詔, 2021, 『日本の構造——50の統計データで読む国のかたち』講談社.
JICA, 2023, 「つながる世界と日本」, JICA ホームページ, (2023年12月16日取得, https://www.jica.go.jp/aboutoda/find_the_link/).

形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 本文は手書きで作成してください。分量は、A4原稿用紙（ヨコ書き、20字×20行）5枚程度（2,000字程度）とします。
- 文献やWebサイト等を参考にした部分では、何を参考にしたのかがわかるように出典を明示してください。
例）見田宗介は、「貧困は、金銭をもたないことにあるのではない」（見田2018:104-5）とする。見田によると、貧困は、「金銭を必要とする生活の形式の中で、金銭をもたないことにある」（見田2018:105）。
- 参考にした文献やWebサイト等のリストを、本文とは別にしてA4用紙にまとめてください。指定された字数、枚数には含みません。このリストについては、手書き、パソコン等どちらも可とします。
例）見田宗介, 2018, 『現代社会の理論——情報化・消費社会の現在と未来』（改訂版, 増補）岩波書店.
厚生労働省, 2023, 「働く人のメンタルヘルス・ポータルサイト こころの耳」, 厚生労働省ホームページ, (2023年12月16日取得, <https://kokoro.mhlw.go.jp/>).
- 図表を用いる場合は、本文とは別にしてA4用紙にまとめてください。指定された字数、枚数には含みません。図表の作成は、手書き、パソコン等どちらも可とします。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 取り上げた問題について、文献やWebサイト等を十分に調べているか。
- 調べたことをまとめるだけでなく、自分なりの考察を加えることができるか。
- 問題の背景にあると考えられる、心や社会のあり方に触れているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は8分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を12分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題発表では、上記課題への回答をまとめ直して発表してください。回答内容がよく伝わるように、プレゼンテーションを工夫してください。使用できる機器等は下記の通りです。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使用できる機器等について		
①模造紙	○	2～3枚程度
②プロジェクター	○	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。 Windows版のPowerPoint2016以降のバージョンで作成したファイルをUSBメモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	3部（面接者2部、受験生1部）

※「①」、「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「①」と「④」、「②・③」と「④」の組み合わせも認めます。

■ 課題

今や、私たちが生きていくうえで、「環境」は、どの分野においても欠かすことのできないキーワードとなっています。下記の3つの課題から1つを選び、その課題に取り組んだ内容について、「あなたが人間環境学科で身につけたい力や取り組んでみたいことがら」も含めてまとめたものを提出してください。

- (1) 身近な自然環境について、その特徴や状態を調査し、人間活動とのかかわりについて説明してください。
- (2) 地球環境問題とされるもののうち1つを取りあげ、その問題の現状と課題及びその問題の解決手段について説明してください。
- (3) 地域問題、社会問題のいずれかに関する新聞記事を1つ取りあげて、①その記事になぜ関心を持ったのか、②その記事にどのような意見を持っているかを述べてください。なお、①は400字程度、②は800字程度でまとめるようにしてください。選択した新聞記事をA4用紙にコピーして、その記事の出典を「〇〇新聞、〇〇年〇〇月〇〇日付朝刊（あるいは夕刊）」のように明記して、同封してください。新聞は全国紙が望ましいです。

■ 形式

下記の形式に沿って概要を作成してください。

- ・手書きの場合：A4レポート用紙（ヨコ書き）、1,600字以内、2枚以内
- ・パソコン等で作成する場合：A4用紙（ヨコ書き）、1,600字以内、2枚以内
- ・必ずあなたが考えたタイトルをつけてください。
- ・参考にした書籍や雑誌等は参考文献として記述してください。なお、図表・参考文献は指定された字数・枚数には含まれません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題作成において参考としたもの（体験や調査の内容及び結果、書籍や雑誌、新聞記事など）が示されているか。
- ・読む人にわかりやすい記述になっているか。
- ・タイトルと課題の内容が一致しているか。
- ・あなたの意見を明確に述べているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- ・上記課題の中であなたが選んだものを説明できるように準備してください。
 - ・発表については、下記の2つの発表形式から1つ選んでください。
 - ① B1判程度の大きさの模造紙（複数枚可）で発表資料を作成し、それを用いて発表する。
 - ② コンピュータソフトで発表資料を作成し、それをプロジェクターで投影して発表する。
- なお、課題発表時にメモを持参しての発表は可能ですが、メモを読み上げるだけの発表はしないことが望ましいです。また、上記の発表形式に加えて資料を配付することは可能です。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用する模造紙や資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について		
①模造紙	○	B1判程度で枚数自由
②プロジェクター	○	大学で準備します。
③パソコン		持参してください。 パソコンを持参する場合はVGA端子、HDMI端子、マイクロHDMI端子またはMini Display Portのいずれかのケーブルが接続可能なパソコンを持参してください。万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	3部（面接者用2部、受験生1部）

※「①」、「②・③」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「④」は必要に応じて選択した発表形式の補助資料として用いてください。「④」のみによる発表はできません。

■ 課題

- 下記の2つの課題から1つを選んでください。
- (1) あなたが魅力的に感じた芸術的作品もしくは活動を取り上げ、その概要とそれが社会にもたらした意味を述べてください。
- (2) あなたが高校在学中に制作した作品（作曲、演奏、絵画、デッサン、立体作品、イラストレーション、写真、動画等）のデータを作成し、以下の形式で提出してください。複数点も可能です。学校の課題やプロジェクトなどグループで取り組んだ成果も含みますが、その場合は自身が何を担当したのかを明確にしてください。

■ 形式

課題（1）について

- ・パソコン等で作成のこと：A4用紙（ヨコ書き、30字×40行）1,200字以内
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にしてA4用紙にまとめてください。また、図表は指定された字数には含みません。
- ・参考文献は文章や図表とは別にしてA4用紙にまとめてください。また、参考文献は指定された字数には含みません。

課題（2）について

- ・作品自体のテーマ・形式・材質等は自由です。作品の形式によって次表に指定された方法で提出してください。

画像データとして提出するもの（絵画、デッサン、立体作品、イラストレーション、写真作品、製品模型、造形作品、モデル、プロトタイプ、建築模型等）	PDF、JPEG、PNGのいずれかのフォーマットでUSBメモリ等に保存したもの ※平面作品（絵画、デッサン、イラストレーション等）の場合は正面から撮影、立体作品（造形作品、モデル、プロトタイプ、建築模型等）の場合は、複数の視点から撮影したものを提出すること。
動画・映像データとして提出するもの（CG、アニメーション、実写、音楽の演奏、パフォーマンス、動く造形作品等）	MOV、MP4、AVI、WMV、M4AのいずれかのフォーマットでUSBメモリ等に保存したもの ※音楽の演奏の場合は伴奏を入れても入れなくてもよい。
音声データとして提出するもの（作曲）	MP3、AACのいずれかのフォーマットでUSBメモリ等に保存したもの ※DTMによる演奏の録音も可。

- ・作品の資料（氏名、タイトル、コンセプト、サイズ、技法、材料等に関する説明文。音楽演奏の場合は、作曲者と曲目。作曲ならば、楽譜あるいはこれに類するもの等）をPDFとしてUSBメモリに保存してください。
- ・提出するUSBメモリ等には、氏名と作品カテゴリー（作曲、絵画、イラストレーション等）を記載した紙を添付してください。
- ・提出されたメディア等は返却いたしません。また、提出後のメディア等の差し替えも認めません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

課題（1）について

- ・課題の内容を理解する力があるか。
- ・自分の考えを展開する力があるか。
- ・アイデアをまとめて整理する力があるか。
- ・自分の考えを伝えるために、丁寧に文章を作成する力があるか。

課題（2）について

- ・制作されたものにふさわしいタイトルがつけられているか。
- ・制作されたものにコンセプトが反映されているか。
- ・色や形や音、またそれらの組み合わせ等に創意がみられるか。
- ・材料を工夫して制作されているか。
- ・（特に演奏の場合）表現しようとする意図が感じられるか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題（2）を選んだ受験生は、発表では、作品あるいはその写真等を提示しつつ、タイトル、コンセプト、技法や材料等の創意工夫について説明してください。なお、選考会場での実演（演奏、パフォーマンス等）はお控えください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	×	
③パソコン	○	パソコンを持参し、面接者にパソコンの画面を見せながら発表してください。 万一の場合に備え、発表資料を印刷したものを持参してください。
④配付資料	○	3部（面接者2部、受験生1部）
⑤その他	○	ボード、パネル、制作資料（写真ファイル）、スケッチブック等。 持参可能であれば第一次選考において画像データ等で提出した造形作品の実物一点以上。

児童教育学部

児童教育学科

●湘南キャンパス

児童教育学部

■ 課題

次の (1) ～ (4) の中から一つを選び、その現状と課題について説明し、それに対するあなたの考えを述べてください。
なお、記述の中に具体例を含めてください。(1,600 字程度)

- (1) 保幼小連携
- (2) 地域子育て支援
- (3) 障がい児支援
- (4) 国際理解教育

■ 形式

- ・課題については、選択した課題番号及びタイトルを必ずつけてください。
- ・手書きのみ：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）使用
- ・図表等、執筆上参照した参考文献に関する情報（著者・書名等、インターネットを利用して調べた情報はその URL）については、別紙（A4 用紙）に記入してください。なお、別紙記載分は指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題の内容を正しく受け止めて記載し、文章に一貫性があるか。
- ・課題に対して調べた内容が、あなたの考えや意見の根拠となって記載されているか。
- ・調べた内容を引用するだけでなく、あなた自身の考察が明確に記載されているか。
- ・文章の構成が論理的で分かりやすく、正しい文章の書き方になっているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- ・課題発表においては、配付資料（下記参照）2 部を必ず用意してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	×	
③パソコン	×	
④配付資料	必	A4 用紙、枚数・様式自由、2 部

■ 課題

まず、保健体育の教科書の中から、あなたが最も興味をもったテーマを一つ選びます。次に、教科書以外の信頼できる資料（書籍、新聞、官公庁・協会・連盟公開資料等）を調べたり、自ら調査・実験をしたりするなどして、あなたが考える具体的な解決策や改善策を述べてください。

■ 形式

- 手書きのみ：A4 原稿用紙（タテ置き、ヨコ書き、20 字× 20 行）1,600 字程度
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数には含みません。
- 引用・参考文献は文章や図表とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、引用・参考文献は指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題文をしっかりと読み、要求されていることに的確に答えられているか。
- 資料（引用・参考文献や調査・実験結果）をもとに、論理的に記述されているか。
- 調べた結果とあなたの見解・考察が区別される形で記述されているか。
- 資料や引用・参考文献の出典が明確にされているか。
- 誤字・脱字がなく、ていねいで適切な文章表現がなされているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題発表にあたっては、あなたが提出した上記の課題の内容をさらにわかりやすく説明してください。その際、図表や資料を記入したパネル・模造紙・配付資料（2 名分）などを準備して発表してください。それに対して質疑応答を行います。なお、メモを持参しての発表は可能です。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	B1 判程度、枚数自由
②プロジェクター	×	
③パソコン	×	
④配付資料	○	2 部
⑤その他	○	パネルなど持参可。

※ 「①」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「①」と「④」と「⑤」の組み合わせも認めます。

■ 課題

下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 理想的なアスリートを目指すときに重要と思われるポイントについて、あなたが現在行っているスポーツと関連づけて記述してください。
- (2) スポーツの優秀なコーチを目指すときに重要と思われるポイントについて、あなたが現在行っているスポーツと関連づけて記述してください。
- (3) スポーツの優秀なトレーナーを目指すときに重要と思われるポイントについて、あなたが現在行っているスポーツと関連づけて記述してください。

■ 形式

- ・必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 字程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 字程度
- ・図表を用いる場合：文書とは別に A4 用紙 1 枚以内

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・今後あなたが進みたい方向性を、明確にとらえられているか。
- ・現在あなたが行っているスポーツと、十分に関連づけられているか。
- ・調べた結果だけでなく、あなたの意見も記述されているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 7 分程度とし、それに対する質疑応答を 3 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 15 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

上記の課題の中であなたが選んだものを説明できるように準備してください。その内容をわかりやすく効果的に説明するために、下記のもの（いずれか 1 つ）を準備して発表してください。

- ① パネル、模造紙（2 枚以内）。
- ② A4 用紙で 10 枚以内にまとめた図表等の補助資料。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について		
①模造紙	○	2 枚以内
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	A4 用紙で 10 枚以内（2 部）
⑤その他	○	パネル

※ 「①」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

■ 課題

下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 柔道・剣道の平素の稽古にあたって大切な武道精神とは、具体的にはどのような心構えや態度を指すのでしょうか。あなたの体験や見聞を踏まえた意見をまとめてください。
 - (2) 武道の発展を図るためには、優秀な指導者が必要です。そこで、学校や地域社会における武道（柔道・剣道）の指導者として、大切な心構えや、指導上の留意点について、あなたの考えを具体的に述べてください。
 - (3) 地域社会で活動している町道場やスポーツ少年団などを訪問し、指導方法、稽古内容、参加者などを調べ、学校の運動部活動と比較して気づいた点をまとめてください（団体名・所在地を必ず記入すること）。
- ※武道学科は、2コース（柔道・剣道）ですので、本課題における武道とは、柔道・剣道を指しています。課題ではあなたの「柔道、もしくは剣道に関する実体験を踏まえた知識や意見」を述べてください。

■ 形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 字程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 字程度
- ・文章の冒頭に、なぜその課題を選んだのか理由を明記してください。
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・文章の冒頭に課題を選択した理由が明記されているか。
- ・調べた結果だけでなく、あなたの意見や考えも記述されているか。
- ・誤字・脱字がなく、ていねいで適切な文章表現がなされているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- ・上記課題について、さらに詳しく発表してください。
- ・発表資料（パネルや模造紙あるいは配付資料等）を準備してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について		
①模造紙	○	1～3枚程度
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	A4用紙3枚程度、2部
⑤その他	○	パネル等

※「①」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

■ 課題

あなたの住んでいる地域における健康もしくはスポーツに関する政策と具体的な取り組みについて事例を調べたうえで、生涯スポーツをより振興させる方策について、あなたの考えをまとめてください。

■ 形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きのみ：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）2,400 字以内、6 枚以内
- 図表などを用いる場合は、文章と別に A4 用紙にまとめ、添付してください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。図表は、手書きで作成しても、パソコンで作成しても構いません。
- 文章や図表の作成に使用した参考文献・資料は、本文とは別の A4 原稿用紙に明記してください。なお、参考文献・資料は、指定された字数・枚数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題と提出された内容に整合性があるか。
- 健康もしくはスポーツに関する政策と具体的な取り組みが記述されているか。
- 生涯スポーツを振興させる考えが具体的に記述されているか。
- 構成が適切で誤字・脱字がなく、ていねいに記述されているか。
- 参考文献・資料の出典が明確に示されているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

上記の課題について口頭発表ができるように準備してください。発表の際には、手元の資料として、第一次選考の際に提出した課題のコピーや発表原稿メモなどを見ても構いません。

＜発表要件＞

- ①口頭での発表です。
- ②補助資料として、課題の内容をわかりやすくするためにまとめたもの（模造紙、配付資料、フリップボード、スケッチブック等）を準備しても構いません。補助資料は回収しませんので、試験終了時に返却します。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	2～3 枚程度
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	A4 用紙で 5 枚程度（2 部）
⑤その他	○	フリップボード（スケッチブック等）10 枚程度

体 育 学 部

スポーツ・レジャーマネジメント学科 ●湘南キャンパス

■ 課題

- 下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。
- (1) 自らが経験又は関わった祭りや日本の伝統文化について実際に取材、体験して報告書を提出してください。
 - (2) 自らが経験した子どものあそびについて調べ、報告書を提出してください。
 - (3) 自らが経験又は関わったスポーツ・レジャーのイベントについて実際に取材、体験して報告書を提出してください。

■ 形式

- 選択した課題番号およびタイトルを必ずつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）6 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 30 行）2 枚程度
- 図表を用いて説明する場合は、図表は文章とは別にして、A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された枚数には含みません。
- いずれの課題も引用参考文献を必ず記載してください。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- スポーツ・レジャー・あそび・ゆとりなどの概念を的確に捉えているか。
- 独創的な工夫がなされているか。
- 今後の展望について盛り込まれているか。
- 問題を発見しようとしているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25 分程度行います。課題発表は10 分程度とし、それに対する質疑応答を5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を10 分程度行います。

- 口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。
- あなたが選択した課題について、口頭で発表してください。
 - 発表の際に、その内容をわかりやすく説明できるように、模造紙、パネルなどで資料を提示したり、可能であれば実演も行うような工夫をしてください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について		
①模造紙	○	枚数自由
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	2 部
⑤その他	○	パネル等

■ 課題

次の課題について、①～③について留意しながら、あなたの考えを具体的に述べてください。

「誰もが生き生きと自分らしく暮らせる“健康な社会”の創造に向けて何が重要になるのか」について、「あなたが健康学部健康マネジメント学科で身につけたい力や希望」を含めて考えをまとめてください。

- ①所定の形式に沿うこと
- ②「運動」「栄養」「社会福祉」「メンタルヘルス」「地域」「政策」「生命科学」「情報」のうち複数をキーワードとすること
- ③行政（国・地方自治体）や国際機関が示している健康課題または産業界の動向を、新聞や文献等により調査すること

■ 形式

- ・タイトルを必ずつけてください。
- ・A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,600 字程度（手書きのみ）
- ・別紙（A4 用紙）に、(a) 図表等、(b) 執筆上参照した参考文献に関する情報（著者・著作名、書名等、インターネットを利用して調べた情報はその URL）を記入してください。なお、別紙に記載する (a)～(b) については、指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・提出した課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- ・課題の内容を正しく受けとめて記載し、文章に一貫性があるか。
- ・課題に対して調べた内容が、あなたの考えや意見の根拠となって記載されているか。
- ・調べた内容を引用するだけでなく、あなた自身の考察が明確に記載されているか。
- ・文章の構成が論理的で分かりやすく、正しい文章の書き方になっているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 7 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 8 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使える機器等について		
①模造紙	○	四六判（788mm × 1091mm）程度、4 枚以内
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	A4 用紙、枚数・様式自由、2 部

■ 課題

毎日、新聞を読んだり、テレビのニュース番組を観たりしていると、現在の日本の社会では、さまざまな出来事が起こり、さまざまな社会問題が生じていることがわかります。そのような出来事や問題の中から、法律に関係のあるテーマを1つ設定し、その詳細について調べてみてください。調査の方法は問いません。図書館やインターネットを利用しても構いません。調査することで事実や問題の詳細を知ることができますが、それだけでなく、事実の分析の仕方や問題の解決方法が決して1つではなく、さまざまな見方や考え方があることがわかるはずです。

そうした調査からわかったことを踏まえて、設定したテーマについて、あなたならば、事実をどのように分析し、どのように解決すべきだと考えるのかを、述べてください。

■ 形式

- 文頭には必ずタイトルをつけ、**文末には必ず参考文献や資料名を明記してください。**
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）2,500 字～ 3,500 字程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、30 字× 35 行）2,500 字～ 3,500 字程度
- 図表を用いて説明する場合は、文章とは別にして、A4 用紙 2 枚以内にまとめてください。
- 参考文献や図表は、指定された字数（2,500 字～ 3,500 字程度）には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題がどのようなことを求めているか適切に理解しているかどうか。
- テーマの設定が適切なものであるかどうか。また、具体的なものであるかどうか。（以下の注意点を参照）
- 事実や問題の詳細を調べているかどうか。また、調べ方が適切であるかどうか。
- 調査からわかったことをあなたの考察の中に取り込んでいるかどうか。また、調査からわかったこととあなた自身の考察とを区別しているかどうか。
- 論理性をもった、正しい文章で書かれているかどうか。

【注意】

- 課題の内容、形式、第一次選考での主な評価ポイントは、以上のとおりですが、次の点に注意してください。
- 新聞記事やニュースからテーマを設定するというのは、例えば、「死刑判決」に関する記事から「死刑は存置するべきか、廃止するべきか」というテーマを設定するとか、「裁判員制度」に関するニュース報道から「裁判員制度の課題は何か、今後どうあるべきか」というテーマを設定するということです。ただ、ここで例に挙げた「死刑は存置するべきか、廃止すべきか」、「裁判員制度の課題は何か、今後どうあるべきか」というテーマは避け、あなた自身でテーマを考えてください。あなたがどのようなテーマを選択するかについても、わたしたちには非常に関心があります。
 - 調査をすれば、事実の分析の仕方や問題の解決方法が決して1つではなく、さまざまな見方や考え方があることがわかるはずです。そのようにさまざまな見方や考え方があることや、その内容については、必ず触れてください。事実の分析の仕方や問題の解決方法にさまざまなものがあることを示したうえで、あなた自身の分析や解決方法を述べることができるかどうかをわたしたちは知りたいのです。

■ 第二次選考について

- 第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。
- 口述試験内容は、p. A-9『**口述試験要領**』を参照してください。
- 課題発表に準備するものは次のとおりです。
 - (a) 課題発表の内容をまとめたもの（A4 用紙 1 枚、2 部）
これとは別に、次のものを準備しても構いません。
 - (b) 課題発表に関連する図表（A4 用紙 2 枚以内、2 部）
 - (c) 補助資料（模造紙：1 枚）
発表の際は、メモを持参しても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で使用できる機器等について

①模造紙	○	1 枚
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	必	A4 用紙 1 枚、2 部
⑤その他	○	課題発表に関連する図表：A4 用紙 2 枚以内、2 部

政治経済学部

政治学科

●湘南キャンパス

〔3年次（第5セメスター）以降の授業科目は品川キャンパスで開講〕

課題

政治学科では、政治、行政、国際という3つの分野を横断的に学び、地域、国、世界といったさまざまなレベルで起きている問題に対して解決方法を考えることのできる人材を社会に送り出すことを、目標の1つとしています。

今日の世界ではグローバリゼーションの進展により、国境を越えて市民、企業、団体、地域同士のかかわりが強くなるとともに、政治、経済、社会面でさまざまな変化や問題も生じています。

そのことをふまえて、この課題では、グローバル社会で現在生じている問題のなかから1つをテーマとして選び、その問題の背景を調べるとともに、解決に向けて、国際社会の一員として、市民、地方、国、あるいは国際組織が今後どのような役割を果たしていくべきかについて、あなたの意見を述べてください。

形式

- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）4,000 字程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 40 行）4,000 字程度
- 必ずタイトルをつけてください。
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数には含みません。
- 課題作成に使用した書籍、新聞、インターネットサイト等は必ず参考文献として明記し、A4 用紙に記載してください。なお、参考文献は指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題の内容を的確に表現したタイトルがつけられているか。
- テーマとした問題について、それが生じた背景を理解しているか。
- 調査したことが内容にきちんと反映されているか。
- 文章が論理的に構成されていて、わかりやすいか。そのための工夫がなされているか。
- あなたの意見を述べるときに、なぜそのように考えるのかを根拠とともに示しているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

上記の課題について、口頭でわかりやすく説明できるように準備してください。課題発表の際には、単に原稿を読みあげるのではなく、課題を調べたときのデータ、写真を示すなどの工夫をしてください。ただし、示すことのできる資料は紙類のみとします。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料	○	課題を調べたときのデータ、写真など（面接者2部、受験生1部）
⑤その他	必	掲示用ポスター：課題を調べたときのデータ、写真など（2枚程度）

■ 課題

新型コロナウイルスの世界的大流行（パンデミック）は、私たちの身近な経済活動にもさまざまな影響を及ぼしました。その中で、あなたがもっとも重要だと思うテーマを選び、以下の点を踏まえながら、あなたの考えをできるだけ具体的に述べてください。テーマは新聞やテレビなどが報じるニュースを参考に、入学後にあなたが経済学科で学びたいと考えている、関心のある事柄から選んでください。

- ①あなたにとってなぜその問題がもっとも重要なのか
- ②その問題の現状（過去からの推移、他国との比較など）
- ③その問題について異なる主張をしている経済学者、エコノミストの内容の比較
- ④上記③を踏まえたうえで、自らの主張を論理的に述べる

なお、①、②については基礎知識について述べている本を最低1冊、③については異なる主張がなされている本を最低2冊精読したうえで、参考文献に加えてください。

■ 形式

- 必ずタイトルを付けてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）4,000 字程度
- パソコン等を使用する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 35 行）4,000 字程度
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。また、図表は指定された字数には含みません。
- 課題作成に使用した書籍、雑誌、新聞、インターネットサイトなどは必ず参考文献として明記し、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は、指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 調査や情報の収集がなされており、それらがあなたの意見の根拠として示されているか。
- あなたの意見を述べるとき、データや他者の意見・主張を基礎としているか。また、自分の意見と他者の意見を区別しているか。
- 課題について、それに対する経済学的な考え方を調べ、その考え方を理解しているか。
- 文章の書き方が論理的で分かりやすいか。また、そのための工夫がなされているか。
- 課題の内容、形式で求められている条件を満たしているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

課題発表は、上記課題について、模造紙、パソコン、プロジェクターは使用せずに、配付資料だけを用いて説明できるように準備してください。課題レポートの内容、発表の仕方、質問への回答などを評価の対象とします。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料	必	A4 用紙 2 ～ 3 枚程度（2 部）

課題

あなたの身の回りにある仕事や将来の仕事、例えば、親や親戚の仕事、あなたのアルバイト先の仕事、あなたが将来就きたい仕事などから1つの「仕事」を選んだうえで、その仕事に関係のある特定の「企業」を1社取りあげ、課題を作成してください。（仕事と企業の選び方は、下記①～③の例を参考にしてください。）

- 例①「仕事」に親や親戚が行っている工務店の経営を選び、「企業」に積水ハウスを取りあげる。
- 例②「仕事」にアルバイト先であるコンビニエンスストアでの接客を選び、「企業」にセブン-イレブンを取りあげる。
- 例③「仕事」に将来の希望職種であるマーケティング業務を選び、「企業」ファーストリテイリングを取りあげる。

取りあげた企業に関する情報を、できれば直接企業から、さらには新聞・雑誌・書籍・インターネットなどを用いて収集してください。次に、これらの情報を分析して、取りあげた企業にどのような問題や課題が存在するのかを明らかにし、それをどのように捉えて、対応・改善していったらよいかなどの考察を、あなた独自の視点で論述してください。

形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）4,000 字程度、12 枚以内
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字× 35 行）4,000 字程度、4 枚以内
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 情報の入手元に関しては、必ず参考文献として明記してください。参考文献は文章や図表とは別にして、A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題の内容、形式で求められている条件を満たしているか。
- 情報の収集がなされており、その根拠が示されているか。
- 収集された情報を基にして、あなたの意見が述べられているか。
- 書き方が論理的でわかりやすいか。またそのための工夫がなされているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。持参しても構いません。 大学のパソコンを使用する場合は、Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 パソコンを持参する場合は、HDMI 端子のパソコンを持参してください。その他の端子のパソコンの場合は、HDMI 端子への変換ケーブル等を必ず持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	3 部（面接者 2 部、受験生 1 部）

※ 「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。
なお、メモを持参しての発表は認めません。

■ 課題

下記の課題について、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

私たちの社会が直面する重要な地球規模の課題を解決するためには、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals – SDGs）における 17 の目標の複数の目標にまたがる取り組みをしばしば必要とします。今日の重要な課題として挙げられる以下のテーマの中から一つを選び、SDGs の複数の目標と関連させながら、その課題の解決に向けてあなたの身のまわりや社会で行われてきた取り組みを紹介してください。また、その問題点（改善すべき点）を具体的に述べ、もしあなたならどのように取り組むかについて、説明してください。

テーマ：日本がめざすべき多文化共生、人権とマイノリティ、紛争と環境破壊、多様なアイデンティティの尊重、貧困と格差

■ 形式

- ・手書きのみ：A4 レポート用紙または A4 原稿用紙（タテ書き、ヨコ書きは問いません）に、日本語（1,600 字以上）または英語（800 ワード以上）で作成してください。
- ・読みやすいいねいな字で書くことに努めてください。
- ・以下は、指定された字数には含みません。
- ①課題には必ず表題（タイトル）をつけてください。副題を加えても構いません。
- ②引用したり参考にした文献やインターネットのサイトがあれば、必ず出典を（詳しくわかりやすく）明記してください。なお、参考文献等は指定された字数には含みません。
- ③図や表、フローチャートなどを添えても構いません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・SDGs の目標を理解したうえで、選んだ取り組みについて具体的に分かりやすく説明されているか。
- ・問題を改善するための取り組みについて、あなた自身の考察が反映されているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表（英語でも可）は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

- ・原稿やメモを持ち込むことは認めますが、原稿をそのまま読むことは避けてください。あなたのコミュニケーション能力をアピールできるように努めて、あなた自身の言葉で語ってください。
- ・発表用の説明資料（課題について見やすくわかりやすく整理したもの）を紙媒体（サイズは A3 に限る）あるいは PPT 等で作成し、発表してください。PPT 等のデジタル形式の資料を使用する場合は、資料を必ず USB に入れて持参してください。
- ・紙媒体の資料を使う発表は、会場の黒板等に資料を掲示してください。PPT などのデジタル形式の資料を使う発表は、会場のパソコンとプロジェクターを使用してください。
- ・ハンドアウト（配付資料）を 3 部準備し、面接者等に渡してください。
- ・面接試験は、高校で打ち込んでいることや本学科への志望動機などについて英語を交えて行います。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	○	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。
④配付資料	必	3 部
⑤その他	○	A 3 用紙

※ 「②・③」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。また「④」も準備してください。

■ 課題

下記の2つの課題から1つを選び、所定の形式にそって作成したものを提出してください。

- (1) 戦争や災害は、まちを破壊し、人びとの生命や財産を奪うなど、被災者の心に深い傷を残します。大きな犠牲をとともなう出来事を忘れない人は少なくありませんが、その悲惨な体験を広く後世まで伝えるために、戦争や災害の痕跡が刻まれた建造物を遺構として保全することがあります。①このような歴史的な遺産の具体的な事例を取り上げるとともに、②ダークツーリズムの経済的・社会的効果について、あなたの考えを述べてください。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、水際対策が強化されたために、入国者数が停滞しました。しかし、2022年10月に水際対策が緩和されると訪日外国人観光客が急増し、2023年1月以降も着実に増加傾向を示しています。①訪日外国人観光客が多く訪れる場所を挙げながら、②観光の目的・動機を説明するとともに、③外国人観光客が日本で直面する問題とその解決策について、あなたの考えを述べてください。

■ 形式

- 適切なタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）5 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、1 枚あたりの文字数は自由）2,000 字程度
- 課題文章の最後に、執筆上参照した参考文献に関する情報（著者・訳者名、書名等）を、必ず明記してください。インターネットを利用して調べた情報については、URL を明記してください。なお、参考文献等は指定された字数・枚数には含みません。
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 文章に一貫性があるか。
- 事実や正確なデータに基づいているか。
- 調べた結果だけでなく、あなた自身の考えが明確に記述されているか。
- 課題に対し、的確に回答しているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は12分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を8分程度行います。

口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	四六全判（788mm×1091mm）
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2019、2021 で作成したファイルを USB メモリ等に保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料（A4 用紙）3 部を持参してください。
④配付資料	×	

課題

SDGs ※を実現するために解決すべき問題を1つあげ、情報通信技術を利用してその解決を試みるとしたら、あなたはどのような方法で解決しますか？あなたが考えるSDGsを実現するために解決すべき問題と、情報通信技術を用いた解決方法につき考えをまとめてください。なお、説明においては、以下の項目を含めてください。

- ・動機：なぜその問題を選択したか。
- ・課題：解決するためにはどのような課題を解決しなければならないか。
- ・解決策：どのような情報通信技術を用いて課題を解決するのか。
- ・評価：選択した問題が解決策によってどこまで達成できると予想するか。
- ・考察：検討においてどのような点に苦労したか、またそれを解決するためにどのような工夫をしたか。

※我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ：<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>

形式

- ・必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4レポート用紙、本文3,000字程度、3枚程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4用紙、本文3,000字程度、3枚程度
- ・図表を用いて説明する場合、図表は本文の中に挿入してください。なお、図表は指定された枚数には含みません。
- ・参考文献は本文の最後にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・提出した課題の内容を的確に表現したタイトルになっているか。
- ・問題を選択した理由が明確に記述されているか。
- ・問題点に対する解決策があなたの意見や考えで論理的に記述されているか。
- ・評価において、どこまで達成できると考えたのかを評価の指標を明記して達成度が示されているか。
- ・苦労した点、解決のための工夫点など、課題を実施した際の考察が明記されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。口述試験内容は、p. A-9『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使える機器等について		
①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	必	大学で準備します。
		Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料3部を持参してください。
④配付資料	×	
⑤その他	×	

■ 課題

下記の2つの課題について、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 数学Ⅱ、数学Ⅲまたは数学Cの内容から入試問題を1題作成してください。ただし、
「微分法・積分法、三角関数、指数関数・対数関数、複素数平面、ベクトル」
の中から2つ以上選択し、それらを含めた融合問題を作成してください。さらに、自身の作成した問題の模範答案を作成し、問題の出題意図を解説してください。
以上をA4レポート用紙5枚程度にまとめて作成してください。
なお、過去に出題された実際の入試問題を参考にした場合は、必ずその旨および大学名、出題年度等の出典を明記してください。
- (2) 東海大学理学部数学科で開講する数学の授業のカリキュラムを調べ、その中から興味・関心のもった科目を1つ挙げてください。また、選択した科目に興味・関心を持った理由を述べ、選択した科目に関連する書籍、雑誌を含む文献で調べたことをまとめてください。
以上をA4レポート用紙3枚程度にまとめて作成してください。
なお、使用した文献について、それぞれ著者、タイトル、出版社名、出版年、ページを明記してください。

■ 形式

- レポートは手書きでもパソコン等を使って作成しても構いません。図や表を含める場合も指定の枚数に含みますが、参考文献や出典の記載は指定された枚数に含みません。
課題の作成については以下の点を考慮してください。
- (1) については、自らの言葉で論述し、それに関する質疑に答えられるようにしてください。
- (2) については、東海大学受験生情報サイトのデジタルパンフレットライブラリの「理学部」パンフレットやオフィシャルサイトで数学科の4年間のスケジュールを必ず調べてください。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・ 数学に対する興味・関心を持っているか。
- ・ すべての課題に丁寧に取り組み、形式に沿ったレポートが作成されているか。
- ・ 筋道を立ててじっくり考えられているか。
- ・ 自身の考えや意見を明瞭に論理的に表現されているか。
- ・ 文献を調べ、調べた内容を分かりやすくまとめることができるか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表(プレゼンテーション) (質疑応答含む)」及び「面接試験(口述試験含む)」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を10分程度及び面接試験(口述試験含む)を5分程度行います。
口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します(入力端子はVGAまたはHDMI)
③パソコン		VGA端子またはHDMI端子で出力のできるパソコンまたはコネクターを持参してください。
④配付資料	必	発表用スライドを印刷した資料を2部持参してください。なお、印刷枚数が多くなる場合には、スライドを4枚綴りで1ページに印刷してまとめるなどしてください。

課題

数学も情報も学べ、A I に必須の数理的センスと情報の解析・応用の力を身につけることができるのが情報数理学科です。大学で学ぶ数学や情報は高校の学びの先にあります。本学科では、代数・幾何・解析等の伝統的な数学、コンピュータと共に発展してきた暗号理論・離散数学等の新しい数学及びI Tの理論（情報の理論）が学べます。

下記の2つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 高校3年生の1学期に学んだ数学の中から、興味を持った題材を選び、その内容を説明し、どんなところになぜ興味を持ったかを述べてください。例えば数学Ⅲで学ぶ微積分や、極限について考える等があります。
- (2) これまでにさまざまな数学を学んだことと思います。その中で興味を持った問題を選び、その問題を解く手順（アルゴリズムなど）をプログラムなどを用いて示してください。また、なぜその問題を選んだのか、どこに興味を持ったかについても述べてください。プログラムの場合、どのようなプログラム言語を用いても構いません。

形式

- ・手書きの場合：A4レポート用紙4枚以内。文字は読みやすい大きさと書いてください。
- ・Word等の文書作成ソフトを使用する場合：A4用紙（上下左右2.5cm程度の余白、文字の大きさは12ポイント程度）3枚以内
- ・内容を簡潔に示すタイトルをつけてください。
- ・数式、図・表等を文中に入れる場合でも、指定された枚数でまとめてください。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・提出した課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- ・なぜその問題を選んだかの理由が明確に述べられているか。
- ・課題の内容がきちんとした順序でわかりやすく、論理的に述べられているか。
- ・述べたいことが正しい日本語で正確に表現されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

課題（1）では数式、表などを中心に、課題（2）ではアルゴリズム、プログラム等を中心に用いて、課題の具体的な内容を論理的に発表してください。発表は、模造紙、板書、PowerPointのいずれかを用いて行ってください。配付資料がある場合は、自分用を含めて3部準備してください。

第二次選考に関する注意事項

課題発表は、模造紙、板書、PowerPointのいずれの発表形式を選んでも評価には影響しません。また、発表の途中であっても適宜内容に関して質問する場合があります。準備した原稿を見ることなく、面接者等に向かって、あなたの言葉で論理的にわかりやすく説明してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	2枚以内
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。 Windows版のPowerPoint2019以降のバージョンで作成したファイルをUSBメモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	使用する場合は自分用を含めて3部
⑤その他	○	板書

※ 「①」、「②・③」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「④」は必要に応じて選択した発表形式の補助資料として用いてください。「④」のみによる発表はできません。

■ 課題

- 下記の4つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。
- (1) 著名な物理学者の研究で、あなたが関心を持ったものを1つ選び、その研究内容を数式及び図を用いて説明し、その研究が世の中へ与えた影響についてまとめてください。
 - (2) あなたが今まで体験したことで、物理法則とのかかわりが見い出せる現象を1つ選び、その現象と物理法則とのかかわりについて数式及び図を用いて説明してください。
 - (3) あなたが興味のある物理現象について実験を行い（過去に行った実験でも良い）、「実験目的」、「実験で扱う物理法則」、「実験方法」、「実験結果及び考察」、「結論」の項目にまとめてください。
 - (4) 宇宙、素粒子、物質（原子・分子）、レーザー、プラズマ、生命現象の物理の中から1つ選び、それに関連する事柄（現象、仕組み、応用例など）を調査し、数式及び図を用いて説明してください。

■ 形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 レポート用紙（ヨコ書き、1枚あたりの字数は自由）5枚以内
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、1枚あたりの字数は自由）4枚以内
- 図表はあなたが作成したものを用い、文章とは別にA4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 参考文献は文章や図表とは別にA4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。参考文献には、著者、書名、出版社、出版年、ページを明記してください。また、インターネット等で調べたものについては、著者及びサイト名とそのURLを明記してください。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 提出した課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- 調べた課題の目的・目標・動機（なぜ調べたのか）が明記されているか。
- 調べた方法が明記され、自分の意見も明記されているか。
- わかりやすい文章で明記され、数式や図表を活用した説明ができているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

課題発表の際には、課題の内容を模造紙5枚以内にまとめたものを作成し、発表用のメモなどを見ないで円滑に発表できるように、十分な練習を行うなどの準備をしてください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	必	5枚以内
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料		

課題

下記の2つの課題から1つを選び、その内容について調べてください。調べた内容は所定の形式に沿ってまとめ、提出してください。なお、調べるにあたっては教科書だけでなく、その他の文献や資料も用いてください。

(1) 化学の法則や原理には人名のついたものがあります。下記の中から2つを選び、それらの内容を具体的な例（物質や反応）を挙げて説明してください。

アボガドロの法則、ファラデーの法則、ヘスの法則、ヘンリーの法則、ボイル・シャルルの法則、ルシャトリエの原理

(2) 教科書に載っている金属元素の中で1種類の金属元素を選んで、その単体の①製造方法（製錬、電解精錬、融解塩電解）、②特徴と用途、③単体またはイオンの主な反応について説明してください。

形式

- 必ず表紙（タイトル）をつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）2,000 字以内
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字× 35 行）2,000 字以内
- 図・表は本文中に入れてください。なお、図・表は指定された字数に含みません。
- 使用した文献や資料は、本文の最後に参考文献としてまとめて記述してください。
なお、参考文献は、指定された字数に含みません。
参考文献は、著者名、書名（または雑誌名）、ページ、発行年、発行所を明記してください。
インターネット等で調べた場合は、サイト名とその URL を明記してください。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 要求されている項目がすべて記述されているか。
- 調べた結果が制限字数内にわかりやすくまとめられているか。
- 教科書以外の資料を参照して作成されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表形式は、下記の2つのうちどちらでも構いません。発表の際は、自分で用意してきたメモなどを見ても構いません。

①A4 用紙で作成した資料をテーブルの上で示しながら発表する。

②パソコンで資料を提示しながら発表する。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	2 部（面接者用）

※ 「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

情報理工学部
情報科学科

●湘南キャンパス

課題

情報科学科では、「人間」をキーワードとして「AI・計算科学・数理科学」「情報計測・可視化」の2つの大きな分野の研究・教育を行っています。10年ほど前から盛んになってきたAI技術は、単なるブームにとどまらず私たちの身の回りのありとあらゆる分野に浸透してきています。また、生体内部のイメージングや地球観測衛星によるリモートセンシングは、これまで人間が知ることのできなかった世界を明らかにしつつあります。当学科のこれらの分野に関連した下記の2つの課題から1つを選んで所定の様式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) AI・計算科学・数理科学
あなたの身の回りにある人工知能の活用事例を挙げ、その技術の原理を詳しく述べてください。どのようなアイデアが現在の技術革新をもたらしましたか。また、今後どのようなことが可能になるかについて人間の生活との関わり観点からあなたの考えを述べてください。
- (2) 情報計測・可視化技術
医療のための生体イメージングや地球観測のためのリモートセンシングなどの情報計測・可視化技術をひとつ取り上げ、その技術の意義や原理を詳しく述べてください。また、その技術が健康・安心・安全などの面で人間の生活にどのようなメリットをもたらしてきたか、今後どのような発展があるかについて、あなたの考えを述べてください。

形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- (1)・(2) いずれを選んだ場合も、その課題や技術を選んだ理由を述べるとともに、それらに関連して情報科学科で学びたいことを述べてください。
- パソコン等で作成：A4用紙（ヨコ書き、35字×35行）2枚程度、2,400字程度
- 図表を用いる場合は、本文とは別にして、A4用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 参考文献は本文の最後にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 指定された形式になっているか。
- 関連する技術・学問について十分な知識を得ることができたか。
- 調査にとどまらず、あなたの考えに基づく提案があるか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。
課題発表では、メモを持参しての発表は認められません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。（入力端子：VGA、HDMI）
③パソコン	必	大学で準備します。持参しても構いません。 大学のパソコンを使用する場合は、Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 パソコンを持参する場合は、VGA 端子または HDMI 端子のあるパソコンを持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	×	

■ 課題

現在では、直接人の目に触れない所でも、コンピュータを利用した装置やシステム（例えば、各種家電製品、自動車の運転補助システムや鉄道・航空機のチケット予約システム）が実現されており、以前に比較して非常に便利かつ安心・安全な生活を営む事ができるようになっています。一方で、コンピュータの導入が遅れている分野も残されているのも事実です。このようなコンピュータの活用が未開拓な分野の事例を一つ取り上げ、以下の点についてまとめてください。

- ①取り上げた分野にコンピュータの導入が遅れている理由
- ②上記①の問題点を解決するためのあなたの考え
- ③上記②を実現するために情報理工学部コンピュータ応用工学科で学ぶ必要のある内容

■ 形式

- ・パソコン等で作成（手書きは不可）：A4 用紙（横書き、合計 2,400 文字程度、2～3 枚程度）
- ・必ずタイトルをつけてください。
- ・図表を用いて説明する場合は、文章の中にわかりやすい形で挿入してください。
- ・参考文献等の外部参照からの引き写しは必要最低限とし、引き写した文章部分は下線を引き、本文の最後に参考文献の情報（書籍名、URL 等）を提示してください。なお、引き写し部分は指定の文字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題の内容に合ったタイトルがつけられているか。
- ・図・表をうまく用いているか。
- ・調査した内容を記述しているだけでなく、あなた自身の考え・アイディアが具体的に提示されているか。
- ・記述内容に明らかな間違いや事実誤認がないか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 8 分程度とし、それに対する質疑応答を 7 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。（入力端子は HDMI に対応可）
③パソコン	必	大学で準備するパソコン（Windows）または持参のパソコンを使って発表していただきます。いずれの場合も、PowerPoint 2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。持参できるパソコンはプロジェクタ出力の為、HDMI 出力可能なものに限りです。また、万一に備えて PowerPoint のスライド（コンテツ）を印刷した資料 1 部を持参してください。
④配付資料	×	

■ 課題

コンピュータグラフィックス（CG）やバーチャルリアリティー（VR）、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）など、情報メディア技術やそれを基盤としたサービスは、我々の日常生活に深く浸透しており、私たちの生活はとても便利になりました。その一方で、これまでにはなかった新たな問題も生じています。

情報メディア技術に関する以下の課題について、所定の形式にそって作成したものを提出してください。

21 世紀になってから誕生した情報メディアに関係する技術や製品、サービスを調査してみましょう。そのなかで、あなたが最も興味を持ったこと 1 つについて、以下の点を含めてまとめてください。

①あなたはなぜそのことに興味を持ったのか
②現状の問題点とその解決のためのあなたの考え
③情報理工学部情報メディア学科で身につけたい力や学びたい内容

■ 形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- パソコン等で作成：A4 用紙（ヨコ書き、35 字× 35 行、2,400 字程度、2 枚程度）
- 図表を用いる場合は、本文の中の適切な場所に挿入してください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 参考文献は本文の最後にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 指定された形式になっているか。
- 的確なタイトルがつけられているか。
- 調査した内容をそのまま記述するのではなく、その内容を理解してあなたの言葉で記述しているか。
- 記述内容に明らかな間違いはないか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

・課題発表では、発表用原稿やメモを持参しての発表は認められません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について		
①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します。（入力端子：HDMI）
③パソコン		HDMI 端子のあるパソコンを持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を 3 部持参してください。
④配付資料	×	

建築都市学部

建築学科

●湘南キャンパス

課題

建築学では、文系・理系の広範な知識を総合的に思考し判断することが求められます。そのため、今あなたが得意とする科目や興味のある事項は、そのまま本学科での学びにつながります。

建築や都市について、下記の中から最も興味のあるテーマを1つ選び、図書館やインターネットなどで情報を集めたうえで、具体的な事例を取りあげてあなたの感想や考察を、写真や図版などを用いて、わかりやすくプレゼンテーション（表現）してください。

- (1) あなたが住んでいる地域を取りあげて、子ども、障害者または高齢者の居住環境（住戸や街）を向上させるための工夫について、人口統計データ（子育て世帯の数や割合、一人暮らし高齢者世帯の割合など）、地方自治体による政策、住民による地域活動等の具体的な事例を挙げ、ダイアグラム（考え方を示す概念図）やイメージスケッチ等を交えて、それらの課題を分析・考察してください。
- (2) 省エネルギー・省資源・環境対応の観点から、家庭内のエネルギー（電気・ガス）や水道の使い方を見直しが求められています。あなたの家におけるエネルギーや水の使用量・使い方を例示して、建築設備における省エネルギー・省資源・環境対応のための改善方法を提案してください。
- (3) 住宅の構法としては、木造、軽量鉄骨造、鉄筋コンクリート造が主流です。これらの構法の特徴をそれぞれ述べなさい。そのうえであなたが住んでいる家がどの構法かを調べ、同じ間取りで別の構法による戸建住宅を設計するならば建築構造の観点から柱・梁・壁の配置や寸法を現状からどう変更したいか、構法を1つ選んで図面と写真を用いて説明してください。
- (4) 住んでいる地域にある歴史的建築物（社寺・民家・近代建築）などを1つ選び、地域性や時代性を自らその姿をスケッチして考察してください。
- (5) 興味のある日本の建築家を選び、その建築作品のデザインの魅力を考察してください。

形式

- ・手書きの場合：A4 レポート用紙（1枚あたりの字数は自由）5枚以内
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、1枚あたりの字数は自由）5枚以内
- ・写真や図版を用いて説明する場合は、文章とは別にして、A4 用紙にまとめてください。なお、写真や図版は、指定された枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・テーマの内容を正しく理解して調べ、回答しているか。
- ・テーマに対するあなたの考え方や感想などが記述されているか。
- ・プレゼンテーション（表現）が理解しやすいように組み立てられているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は5分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を15分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

上記課題の中であなたが選んだものを、下記の要領で説明できるように準備してください。

- ・A2判（模造紙・ケント紙などの薄い紙、タテ使い）5枚以内に、絵・写真・図版などを用いて、わかりやすく発表してください。
- ・発表用原稿の持ち込みを認めます（暗記の必要はありません）。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	○	A2判5枚以内。用紙はタテに使用すること。
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料		
⑤その他	○	ケント紙などの薄い紙。A2判5枚以内。用紙はタテに使用すること。

※「①」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

課題

土木工学は、道路・鉄道・港湾・河川・上下水道・通信設備など、文明社会を支えるインフラの構築と維持・管理の役割を果たす社会的責任の大きい学問です。また、地震・台風・洪水など自然災害に対する安全対策や、水質・土壌汚染、騒音・振動、地盤沈下や廃棄物などの環境対策、さらには、まちづくり（都市、交通、公園など）や景観も主要なテーマとなります。

下記の2つの課題から1つを選び、あなたが調べたことや意見を述べてください。必要であれば、図や表を添付してください（指定された枚数には含みません）。

- (1) あなたが魅力を感じる土木構造物（橋、道路、ダム、トンネルなど）を1つ選び、その構造物にどのような力が作用するか、構造物がその力をどのように支えているか、どのような材料が使われているかについて述べてください。
- (2) あなたが印象に残った自然災害や環境問題、まちづくりのいずれか1つについて調べ、それに対する土木工学の役割についてあなたの意見を述べてください。

形式

- 手書きのみ：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）4 枚程度
- 選択した課題番号を記載し、必ずタイトルをつけてください。
- 図表を用いて説明する場合は、図表は文章とは別にして、A4 用紙にまとめてください。また、図表等は参考文献のコピーを用いても構いません。なお、図表は指定された枚数には含みません。
- 調査した資料（参考文献）の全てを最後に明記してください。なお、参考文献は指定された枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 選定した課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- 対象を絞り、課題に対する具体的調査結果が示されているか。
- 調べた結果に対するあなたの意見が記述されているか。
- 調査資料の引用先（参考文献等）が明記されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- 課題発表は、模造紙2枚以内に課題の内容をまとめたものを準備して、わかりやすく説明できるように工夫してください。
- 手元の資料として、出願時に提出した課題のコピーやメモなどを見ても構いません。また、資料を配付する場合は、2部を面接者等に提出してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	必	2枚以内
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料	○	3部（面接者用2部、本人用1部）

■ 課題

東海大学の『学部案内』に記載されている工学部航空宇宙学科航空宇宙学専攻で扱う事柄について、あなたが自ら「テーマ」を設定し、関連する文献（図書、雑誌、Web など）を参考にして、下記①～③を全部取り入れた内容について作文し、要領よくまとめてください。

- ①あなたが容易に準備できる材料や市販の材料を用いて、ものづくりや実験を行うか、あるいは、テーマに関連する観察・観測を行ってください。
- ②物理学や数学で学んだことを利用して、その結果やデータを図表などにまとめて、考察をしてください。
- ③参考にした資料は、本文の末尾に書名、著者名、出版社などを明記してください。

■ 形式

- ・手書きの場合：A4 レポート用紙に 5 枚程度（図、写真を含む）。
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、1 枚あたりの文字数は自由）5 枚程度（図、写真を含む）。
- ・参考文献は、指定された枚数に含みます。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題の主旨に沿ったテーマを取りあげているか。
- ・わかりやすく論理的に記述されているか。
- ・実験・観察・観測などに独自の工夫がなされているか。
- ・グラフを使って説明されているか。
- ・物理学の原理や法則を利用して結果を説明しているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

課題発表は、模造紙、ノートパソコンまたは A3 ～ A4 判のボードを用いて行ってください。形式は問いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について		
①模造紙	○	枚数、サイズは任意
②プロジェクター	○	大学で準備します。
③パソコン		VGA 端子または HDMI 端子のいずれかのケーブルが接続可能なノートパソコンを持参してください。万一の場合に備え、スライドを印刷した資料（3 部）を持参してください。
④配付資料	×	
⑤その他	○	A3 ～ A4 判のボード

※ 「①」、「②・③」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

工学部 機械工学科

●湘南キャンパス

課題

機械工学科は、もの（機械）づくりの学科で、そのための科目を複数用意してあります。この課題は、そのファーストステップとなることを期待しています。

次の要求を満たすロボットまたは車両（以下、ロボットと呼ぶ）を設計し、以下の内容を含むレポートを作成してください。

要求項目：「このロボットは、停止している状態からスイッチを入れると動き出し、約 1m 進んだところで停止する。モーター、電池など、何を使ってもよいが、コンピュータ制御は使わずに、なるべく簡単な機構でこのロボットを実現したい。また、ロボットが何かにぶつかって止まるとかではなく、このロボットのみで要求を満足するようにしてください。」

レポートに含める内容：

- ①設計図（手書きの計画図でも可）
- ②設計のセールスポイント（安価、独特、シンプル、奇抜、確実、カッコいいなど）
- ③約 1m 進んだことをどのような方法で検出し、ロボットを停止させるか。
※③については、概念図（ポンチ絵）を添付して説明してください。
- ④設計したロボットに+αの機構を加えたとしたらどんな機構を加えたいか。

形式

- ・手書きの場合：A4 レポート用紙（1 枚当たりの文字数は自由）8 ～ 10 枚
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（1 枚当たりの文字数は自由）4 ～ 5 枚
- ・図は文章とは別に A4 用紙（枚数は自由）にまとめて添付してください。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・どれだけ深く考えているかが重要で、設計したロボットが複数あっても、また複数のアイデアから最終的な案に達した経緯を記入しても構いません。
- ・あなたの考えやアイデアを明確に記述しているか。
- ・できるだけ具体的な図を描いているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

考えたロボットを Microsoft PowerPoint を用いて説明できるように準備をしてください。実際にロボットを作製し、そのロボットを用いて説明することも可能です。また、説明用の資料を配付することも可能です。その際は 2 部準備してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。Windows 版の Microsoft PowerPoint 2021、2019、2016 のいずれかで作成されたファイルを USB メモリに保存して持参してください。（HDMI 端子で映像出力可能なノートパソコンがある場合は持参して利用しても良い。） 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	2 部

■ 課題

機械システム工学科では、自動車、鉄道、航空機、ロケットなどのモビリティや産業用ロボット、アシストスーツ、人型ロボット、ドローンに代表される智能ロボットなど、われわれの生活を豊かにする様々な「機械システム」を対象とします。

選考に向けて、下記の2つの課題から1つを選び、下記の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) あなたが将来挑戦してみたいと考えるロボットに関する技術的な課題があれば、その課題の内容とそれを解決するための方法および課題を解決できた場合の良い点を述べてください。
- (2) あなたが将来挑戦してみたいと考える乗り物（自動車など）に関する技術的な課題があれば、その課題の内容とそれを解決するための方法および課題を解決できた場合の良い点を述べてください。

■ 形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字×20 行）1,000 字程度、3 枚程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字×30 行）1,000 字程度、1 枚程度
- ・必ずタイトルをつけてください。氏名も明記してください。なお、タイトル・氏名は指定された文字数には含みません。
- ・図表を用いる場合、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された文字数には含みません。
- ・参考文献は文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は指定された文字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・選択した課題の内容を的確に表すタイトルがつけられているか。
- ・課題の中で取り上げた問題とその問題を取り上げた理由が明確に記述されているか。
- ・取り上げた問題について十分調べ、わかりやすく記述されているか。
- ・調べた結果だけでなく、あなたの意見や考えも記述されているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

なお、メモを持参しての発表は可能ですが、発表用原稿としてそのまま読むことは不可とします。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使える機器等について		
①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。持参しても構いません。パソコンを持参する場合は VGA 端子または HDMI 端子のいずれかのケーブルが接続可能なパソコンを持参してください。 大学のパソコンを利用する場合は、Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を1部持参してください。
④配付資料	×	

工 学 部 電気電子工学科

●湘南キャンパス

■ 課題

電気・電子・情報・通信技術は、私たちの生活の中に広く深く浸透しており、現代の社会システムを支える必要不可欠な技術となっています。電気工学・電子工学は、発電・送電などの電力技術や、電気自動車・ロボットを駆動し制御する技術、半導体集積回路に代表される電子デバイスや、電気・電子機器の設計・製造技術などを支える学問です。また、高度な情報化社会に欠かせないインターネットなどの基盤技術を支えているのが情報・通信工学です。

これら電気・電子・情報・通信工学分野のさまざまな科学技術のうち、あなたが興味をもっているものを1つ取りあげ、その科学技術が私たちの豊かな生活や快適な環境の実現にどのように貢献しているかを説明してください。また、その科学技術が抱える課題及び課題の解決策について説明してください。課題の解決策については、調査結果のみならず、あなたの意見や提案を含めてください。

■ 形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）2,800 字程度、7 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 36 行）2,800 字程度、2 枚程度
- 図表や写真を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。また、図表や写真は指定された字数・枚数には含みません。
- 参考文献は文章や図表とは別にして A4 用紙にまとめてください。また、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 科学技術に興味を持っているか。
- 取りあげた技術についてよく調べ、調べたことを理解した上で、わかりやすく説明しているか。
- 提案が、十分に検討されており、わかりやすく述べられているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 8 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 12 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- 資料（図表や文章など、工作物も可能）を用いて説明してください。
- 発表に用いる資料（図表や文章など、工作物も可能）は、面接者等にも見やすいように準備してください（例：資料を A3 判に拡大する、模造紙を用いる、パソコンを用いる等）。
※資料の枚数に制限はありません。
※評価は資料媒体の種類には関係しません。
- 発表の際には、手元の資料としてメモなどを見ても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。
		Windows 版の PowerPoint2016、2019、2021 のいずれかで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	使用する場合は 3 部（面接者等 2 部、受験生 1 部）
⑤その他	○	工作物

※「①」、「②・③」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「①～⑤」の組み合わせも認めます。

■ 課題

下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 超音波画像診断装置について
病院では超音波画像診断が利用され、診断精度は向上しています。まず、超音波の性質とともに、超音波画像診断装置の原理を調べてください。次に超音波断層診断装置の利点と欠点について、今後どのような機能がついていたらよいかあなたの考えをレポートにまとめてください。
- (2) 体温計について
電子体温計（わきの下に挟んで測定するタイプ）、赤外線体温計（空港や、飲食店に設置されている体表面温度）の仕組みを調べてください。次に電子体温計で、自分の体温をいろいろな時刻や、状態（食後や運動後など）で測定しグラフに表し、わかったことをレポートにまとめてください。また、体温計から得られるデータをどのように利用できるか、あなたの考えをレポートにまとめてください。
- (3) 心臓のポンプ機能について
心臓は血液を全身に送るポンプの役割を果たしていますが、工業製品として生産されているポンプとは動作原理や特性に違いがあります。そこで、まず工業製品として生産されているポンプの種類とそれぞれの動作原理を調べてください。次に、心臓がどのように血液を送り出しているのかも調べて、どのような点が似ていて、どのような点が異なるのかを比較し、人工心臓にはどのようなポンプが良いか、あなたの考えをレポートにまとめてください。

■ 形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行） 1,600 ～ 2,000 字程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行） 1,600 ～ 2,000 字程度
- ・図表は、指定された字数には含みません。
- ・課題作成に使用した資料は、参考文献としてレポートの最後にまとめてください。なお、参考文献は、指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題を十分理解し、求められていることがすべて述べられているか。
- ・調べた結果があなたの言葉で表現されているか。
- ・どこまで深く調べているか。
- ・複数の情報源から多面的に調べられているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- ・上記の課題の中であなたが選んだものを説明できるように準備してください。
- ・課題の発表はパソコンを使用してください。必要な機器は大学で準備します。
- ・メモを持参しての発表は可とします。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	必	大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降で作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を一部持参してください。
④配付資料	×	

工 学 部 生物工学科

●湘南キャンパス

■ 課題

下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 生命科学に関連する最近の話題の中で、今後重要な問題として浮上するであろう事柄の1つを取りあげ、その問題点や解決に対する社会の取り組みを調査し、あなた自身の意見とともに報告してください（例：再生医療、遺伝子組換え食品、感染症、iPS細胞、クローン技術など）。
- (2) 過去のノーベル化学賞または生理学・医学賞の研究を1つ取りあげ、その内容（研究の背景、課題解決の方法、研究の成果、社会に与えた影響）を報告してください。また、その研究の応用や将来の発展について、あなたの考えを説明してください。
- (3) 地球環境問題の中であなたが興味を持った問題を取りあげ、その問題を解決するために生命科学がどのような役割を果たすことができるかについて、あなた自身の意見とともに報告してください。（例：エネルギー問題、温暖化、人口増加など）

■ 形式

- ・タイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4原稿用紙（ヨコ書き、20字×20行）1,200字以内
- ・パソコン等で作成する場合：A4用紙（ヨコ書き、20字×20行）1,200字以内
- ・図表等は、指定された字数には含みません。
- ・参考文献は本文の最後にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題を選択した理由が簡潔に述べられているか。
- ・課題について調査に用いた手段の適切性や調査努力の質と量が十分であるか。
- ・第二次選考での発表を見越した課題のまとめかた、理解がなされているか。
- ・調査した結論とともにあなたの意見が記述されているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表に際して、資料などを見ても構いません。発表の補助として、模造紙2枚程度または、パソコン、プロジェクター等を使用しても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	2枚程度
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	HDMIまたはVGA端子のパソコン、タブレット端末等を持参してください。 その他の端子の場合は、VGA端子への変換ケーブル等を必ず持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	使用する場合は3部（面接者等2部、受験生1部）

工学部 応用化学科

●湘南キャンパス

課題

応用化学科は、「化学」を深く学び、社会と人が豊かになる技術や未来を創造する学科です。応用化学科で学ぶ専門分野・キーワードは、プラスチック、医薬品をはじめとした「有機化学」、セラミックス、電池などの「無機化学」、化学物質の性質、次世代エネルギーを考える「物理化学・エネルギー工学」、環境問題、水処理、リサイクル技術、化学製造プロセスを扱う「化学工学」です。

下記の3つの課題から1つを選び、あなたが調べたことを説明し、「応用化学がやるべき役割」についてあなたの意見を述べてください。あなたの意見には「応用化学科で学びたい内容や身につけたい力・希望」も含めてください。必要があれば、図や表を添付してください。

- (1) 身近にある化学製品（例えば、プラスチック製品（ペットボトルなど）、合成繊維、合成洗剤、医薬品、化粧品、食品化学、化学電池（リチウムイオン電池など）、ガラス、陶磁器など）を1つあげ、その化学製品の特長となる性質や用途、その主成分となる化学物質名や製造方法、将来への課題
- (2) 次世代エネルギーとして期待される化学技術を1つあげ、その仕組みや特徴、将来への課題
- (3) 現代社会で問題となっている環境問題を1つあげ、その現状と解決策、将来への課題

形式

- ・選択した課題番号を記載し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 字、1,200 字程度、3 ページ程度）
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行、1,200 字程度、3 ページ程度）
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。また、図表は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・調べた結果をわかりやすくまとめているか。
- ・あなたの意見が述べられているか。
- ・提出した課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- ・提出した課題の文章に文法的な誤りや誤字・脱字はないか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

選択した課題の内容を口頭で発表できるよう、発表内容をプレゼンテーション用ファイル、または模造紙にポスターとしてまとめてください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使える機器等について

①模造紙	○	1～2 枚
②プロジェクター	○	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。持参しても構いません。パソコン等を持参する場合は VGA 端子または HDMI 端子のいずれかのケーブルが接続可能であることを確認してください。 大学のパソコンを使用する場合は、Windows 版の PowerPoint2016 以降で作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を 1 部持参してください。
④配付資料	○	使用する場合は 3 部（面接者等 2 部、受験生 1 部）

※「①」、「②・③」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。なお、「④」は必要に応じて選択した発表形式の補助資料として用いてください。「④」のみによる発表はできません。

課題

下記の2つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 以下のキーワードを参考に、あなた自身の体験、新聞・テレビ報道、書籍・雑誌、インターネットなどを通して、あなたが関心を持った事柄の一つを選び、その現状と原因、問題点などを調べて整理し、その事柄に対するあなた自身の意見をまとめてください。

キーワード：地球温暖化、気候変動、脱炭素社会、海洋環境、ブルーカーボン、地殻変動、マントル、海流、地震・津波、資源開発、鉱物資源、海洋管理、海洋政策、船舶、水中ロボット、海洋エネルギー、洋上システム、リモートセンシング、潜水調査、農林水産業、海洋ビジネス

- (2) 高校での授業や課外活動で自主的に取り組んでいる研究活動について、その目的や方法、そこから得られた結果から導かれるあなた自身の考えについてまとめてください。

形式

- 必ずタイトルと氏名をつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）5 枚（2,000 字）程度（タイトル・氏名を含む）
- パソコン等の場合：A4 用紙（ヨコ書き、30 字× 34 行）2 枚（2,000 字）程度（タイトル・氏名を含む）
- 図表を用いて説明する場合は、文章とは別にして A4 用紙 3 枚以内にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 参考資料及び文献の一覧は、文章や図表とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 提出した課題の内容を的確に表すタイトルになっているか。
- あなた独自の見解や考えが述べられているか。
- 論述の展開に用いた図表が的確かつ十分であるか。
- 参考資料・文献の出典が明記されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	必	大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	必	A4 用紙で 3 部

課題

下記の課題について所定の形式に沿って作成したものを提出してください。
あなたが特に重要と思う日本人船員に関連する問題を1つ選び、現状をまとめ、さらにその問題を解決するためにどうすればよいのか、あなたの考えを述べてください。

形式

- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）6 枚以内
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 20 行）3 枚以内
- 図表は文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題で求められていることを十分に盛り込んでいるか。
- 調べた結果に対してあなたの意見が述べられているか。
- 課題に対する調査が詳細に行われているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

課題発表は、下記のいずれかの方法で発表してください。なお、発表の際は手元の資料として、第一次選考時に提出した課題のコピーやメモなどを見ても構いません。

- ①模造紙 2 枚以内に課題内容をわかりやすくまとめたものを準備して発表する。
- ②PowerPoint に課題内容をまとめ、ノートパソコン（OS は Windows7 または Windows10、PowerPoint のバージョンは 2016 以降）を用いて発表する（スクリーンに投影しながらの発表となります）。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	2 枚以内
②プロジェクター	○	大学で準備します。
		大学で準備します。
③パソコン		Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを CD-R または USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	×	

※ 「①」、「②・③」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

課題

下記の3つの課題から1つ選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) サンゴ、タナゴ類、タツノオトシゴ等のような絶滅が危惧されている生物や、クロマグロ、ニシン、サクラエビ等のような水産資源として保護の必要がある水生生物を1つ取り上げ、その生物の保護や生息環境の保全について現状を調べるとともにあなたの考えを書いてください。
- (2) あなたが一番興味をもっている水生生物をあげ、その生物に興味をもった理由、さらに今までにその生物のことについて調査したり、飼育したりして得られた知識や経験を具体的に書いてください。
- (3) 水産加工食品を1つ取りあげ、その食品に興味を持った理由、さらにその食品についての歴史、製法と製造上の工夫点、栄養機能等について調べてまとめなさい。加えて、その食品をプロモーションするに当たっての自身のアイデアを述べなさい。

形式

- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字×20 行）2 枚程度（800 字程度）
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、一枚あたりの文字数は自由、文字サイズは 10.5 ポイント以上）800 字程度
- 図表を添付する場合：図表は本文とは別にし、A4 用紙で作成すること。なお、図表は指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 調査結果や他人の考えと、あなたの意見をきちんと分けて表現しているか。
- 独創的な意見をもっているか。
- 作文方法、日本語表現が適切か。また、起承転結の構成になっているか。
- 課題に対してあなたがどの程度深く調査、取りまとめをしているか。

第二次選考について

上記の（1）～（3）の中であなたが選んだ課題について、さらに掘り下げて発表用資料にまとめてください。また、詳しく科学的に調査・研究する方法を考え計画を立案してください。さらに、それらの研究がどのように社会に還元されるかについて、あなたの考えをまとめてください。

〔資料の作成の際の注意点〕

基本的に図書や文献を用いて資料を作成してください。インターネットについては、官公庁などの公式 Web サイトからの引用は認めますが、個人の Web サイトを引用することについては禁止します。資料の最後に、図書や文献の名称、Web サイトの名称と URL を明記してください。

〔発表方法〕

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- 発表用資料を 3 部作成して当日持参し、そのうち 2 部を面接者等に提出してください。面接者等に提出した資料は、発表終了後、返却します。
- 発表用資料は、A4 用紙で作成してください。
- 発表用資料に基づき、口頭で発表してください。模造紙、プロジェクターなどは使用できません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料	必	3 部（面接者等 2 部、受験生 1 部）

海洋学部 海洋生物学科

●静岡キャンパス

課題

下記の課題について、所定の形式に沿って報告書を作成し、提出してください。報告書の構成は目的、方法、結果、考察、参考資料とし（下記参照）、文字数が全体で 4,000 字程度（図表と参考資料を除く）となるようにまとめてください。なお、インターネット上の文章の丸写し、もしくはそれに近いと判断される内容については減点の対象となります。また、報告する内容は本年度の課題公表後に総合型選抜出願のためだけにあなたが単独で行った新規の研究に限ります。課外活動のグループ研究の成果や、先輩・友人等が行った研究成果の流用、学校、水族館や研究機関等で助力（機器類・試薬等の借用を含む）を受けたものは認めません。生成 AI 等で作成した文章の使用は不正行為となることがあります。

（課題） 自宅などで飼育されている生物、あるいはあなたが注意深く観察できる身近な野生生物の生態や行動に関して、あなたが興味や疑問を持った点について実際に実験や観察を行い、それについて下記の要領で報告書を作成してください。

（報告書の構成） テーマ：報告するテーマを記載してください。

目的：あなたがその課題を選びテーマを設定した理由や目的、背景などを説明してください。

方法：調査や観察、実験の方法などについて詳しく説明してください。

結果：得られた結果を具体的なデータ（図表・グラフ・写真など）として提示し、その内容を説明してください。

考察：結果を分析し、解釈・推察・予測・仮説をたてるなど、結果に基づいて内容を発展させてください。このとき、必要に応じて過去の知見との関連にも言及してください。

参考資料：参考にした資料（文献や映像など）の出典は明確にしなければなりません。資料名（書名・雑誌名・DVD タイトルなど）、発表者名、発表年を分類して正確に記述してください。なお、インターネット上には、出典の曖昧な情報や信頼性の低い記述も多く存在します。個人が開設しているホームページで自由に掲載された話題などは、出典を明記していないものも多く見られます。出典が明確でない情報は、参考資料としては認めません。

形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字×20 行）10 枚程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、34 字×30 行）4 枚程度
- ・図表を用いて説明する場合は、図表は文章とは別にして、A4 用紙にまとめてください。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・興味や疑問を持ったことをさまざまな方法で追求しているか。
- ・観察や調査の結果をわかりやすくまとめているか。
- ・あなたの理解や考えが記述されているか。
- ・課題内容を的確に理解し、自分で問題を展開しているか。
- ・ユニークな視点で調査・観察・分析がなされているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- ・課題発表は、報告書の内容を網羅して 10 分程度にわかりやすくまとめてください。
- ・課題発表はノートパソコンを用いプロジェクターで投影して行うので、離れたところからでもはっきりと内容が見える資料を準備してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します（本人持参が望ましい。その際は Windows 版であることと、入力端子は HDMI 端子であること）。Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。万一の場合に備え、スライドを印刷した資料（2 部）を持参してください。
④配付資料	×	

■ 課題

人文学科入学後に学びたいことについて、課題 A、B のうち、いずれか 1 つを選び、まとめなさい。

課題 A. あなたが今まで関心をもって挑戦的に取り組んできたことを踏まえ、入学後に学びたいことについてまとめなさい。

課題 B. 人文学部が主催する高校生対象のワークショップ[※]に参加し学んだことを踏まえ、入学後に学びたいことについてまとめなさい。

※ワークショップは、2024 年 8 月 4 日(日)に開催します。

ワークショップへのエントリーは、2024 年 6 月 1 日(土)から 7 月 31 日(水)まで受け付けます。

ワークショップにエントリーした人で、やむをえず参加できなかった場合でも、課題 A での出願は可能です。

詳細については、東海大学人文学部のホームページをご確認ください。

■ 形式

- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）、2,000 字程度、5 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 30 行）、2,000 字程度、2 枚程度
- 参考文献がある場合は本文の最後にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- 課題が求める内容を十分満たしているか。
- これまでの経験や活動内容及びあなたの意見が具体的に述べられているか。
- 課題の内容が、あなたの言葉で表現できているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉(質疑応答含む)」及び「面接試験(口述試験含む)」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験(口述試験含む)を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- 上記課題について、説明できるよう準備してください。
- 発表の際には、手元の資料として課題のコピーやメモなどを見ても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用する模造紙や資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		大学で準備します
③パソコン	○	大学で準備します。持参しても構いません。 大学のパソコンを使用する場合は、Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 パソコンを持参する場合は、VGA 端子または HDMI 端子のパソコンを持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料（3 部）を持参してください。
④配付資料	○	A4 用紙 3 部（面接者 2 部、受験生 1 部）

※「②・③」、「④」のいずれかをを用いて発表してください。

文理融合学部

経営学科

●熊本キャンパス

■ 課題

- 経営学科には、企業経営分野、スポーツビジネス分野、アグリビジネス分野があります。
- 下記の6つの課題から1つを選び、下記の形式に沿って作成したものを提出してください。
- (1) 少子高齢化が進み、日本経済の活力が低下してきています。日本の経済を再び元気にするためには、どんな産業に力を入れていくのがよいか、具体例をあげてあなたの意見を述べてください。
 - (2) 誰もが簡単に運動やスポーツに親しめるように、総合型地域スポーツクラブの設立や、Jリーグの地域貢献事業、さまざまなスポーツの地域独立リーグやクラブチームの設立など、近年日本におけるスポーツでの変化が起こっています。具体例をあげて、このような変化に対するあなたの意見を述べてください。
 - (3) 日本の植物はさまざまな原因によって、絶滅の危機に直面しているものも少なくありません。その要因は道路工事、園芸採取、自然の移り変わり等、いろいろ考えられます。あなたが考えつく「植物を絶滅に追い込む要因と保護活動」について、具体例をあげてあなたの意見を述べてください。
 - (4) いまや世界各国とのヒト・モノ・カネの動きが盛んになってグローバル化が進んでいます。「企業経営分野」「スポーツビジネス分野」「アグリビジネス分野」から具体例をあげて、グローバル化に対するあなたの意見を述べてください。
 - (5) 地域の活性化策は、その地域に新たなビジネスを生み出します。あなたの住んでいる地域で行われている地域活性化の試みや、あなたが考える地域活性化のためのアイデアについて述べてください。
 - (6) 総合的な探究の時間に取り組んだ内容について述べてください。

■ 形式

- ・選択した課題番号を明記し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）3,000 ～ 4,000 字程度、7 ～ 10 ページ程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字× 30 行）3,000 ～ 4,000 字程度、3 ～ 4 ページ程度
- ・図表を用いる場合は、文章とは別に A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- ・課題に使用した図書、インターネットのサイト等は、必ず参考文献として明記してください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。参考文献は文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題で求められている内容に沿っているか。
- ・調べた結果とともに、あなたの意見も記述されているか。
- ・参考文献が明記されているか。
- ・文章が論理的に段落分けされているか。
- ・誤字・脱字がないか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

- 口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。
- ・模造紙を使用して発表する場合は、黒板に貼りつけて発表してください。
 - ・パソコンで発表する場合は、PowerPoint で作成してきたものを、プロジェクターでスクリーンに投影して発表してください。
 - ・配付資料で発表する場合は、1 部を手元に置き、残り 2 部を面接者に渡して発表してください。
 - ・発表の際には、メモなどを見ても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で使用できる機器等について

①模造紙	○	79cm × 109cm、2 枚程度
②プロジェクター	○	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	A4 用紙 3 部（面接者 2 部、受験生 1 部）

※ 「①」、「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

■ 課題

下記の3つの課題から1つを選び、下記の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 国内旅行で行きたい観光地を1つ選び、その観光地を選んだ理由、興味ある自然、歴史・文化、生活スタイル、産業などの観光資源について具体的に述べてください。そして、これらの観光対象を活用した1泊2日の旅行プランを作成し、旅行者を誘致するためのセールスポイントを説明してください。
- (2) 企業等の広告宣伝は、テレビCMや新聞・雑誌だけでなく、SNS等のネットの活用など幅広い展開を見せています。現在、流れているCMの中から、最も印象に残っているCMを選び（ジャンルは自由、複数でも可）、その内容を示し、特徴やポイント、改善点について、あなたの考えや意見をまとめてください。
- (3) 総合的な探究の時間に取り組んだ内容について述べてください。

■ 形式

- ・選択した課題番号を明記し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4原稿用紙（ヨコ書き、20字×20行）2,000字程度、5枚程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4用紙（ヨコ書き、35字×30行）、2,000字程度、2枚程度
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にしてA4用紙にまとめてください（必要とされる字数・枚数には含みません）。
- ・書籍やインターネットを参照した場合、文末に明記するようにしてください。書籍については書名・著者名・出版社・発行年月日、参考ホームページについてはURLとアクセスした日時を記入してください（必要とされる字数には含みません）。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・課題に適切に対応した内容になっているか。
- ・客観的な記述、論理的な構成になっているか。
- ・誤字・脱字がなく、文書作法を適切に守っているか。
- ・課題についてあなたが考えたことを明確に伝えられているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- ・模造紙を使用して発表する場合は、黒板に張り付けて発表してください。
- ・パソコンで発表する場合は、PowerPointで作成してきたものを、プロジェクターでスクリーンに投影して発表してください。
- ・配付資料で発表する場合は、1部を手元に置き、残りの2部を面接者に渡して発表してください。
- ・発表の際には、メモなどを見ても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用する模造紙や資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	○	79cm×109cm、2枚程度
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。 Windows版のPowerPoint2016以降のバージョンで作成したファイルをUSBメモリに保存して持参してください。万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	A4用紙3部（面接者2部、受験生1部）

※「①」、「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

■ 課題

人間情報工学は、暮らしを豊かにする情報機器や、健康の維持・増進のための医療機器などの開発・管理に役立つ学問です。この学問に関わる、下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

(1) 以下のテーマについて、興味のあるものを1つ選び、その概要とあなたの考えや感想をまとめ、レポートとして提出してください。

テーマ：人工知能、半導体、データサイエンス、環境計測、健康と情報、医療と工学

(2) あなたがこれまでに作成した、パソコンのプログラム（ゲームや便利な機能を実現したものなど）、あるいは、電子回路（組み立てキットも可）について説明し、あなたの考えや感想を加えて、レポートとして提出してください。

(3) 代表的な生命維持管理装置の一つに血液浄化装置があります。本装置がどのような状態の患者に用いられるのか、またその効果についてわかりやすく説明し、あなたの考えや感想を加えて、レポートとして提出してください。

■ 形式

- ・選択した課題番号を明記し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字×20 行）2,000 字程度、5 枚程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字×30 行）、2,000 字程度、2 枚程度
- ・図表を用いる場合、図表は本文中に挿入してください。なお、図表は指定された字数には含みません。
- ・参考文献は本文末尾にまとめて記載してください。なお、参考文献は指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・選択した課題の内容を正しく理解しているか。
- ・具体的でわかりやすい記述をしているか。
- ・調べた結果に加えて、あなたの考えが述べられているか。
- ・誤字・脱字がないか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- ・模造紙を使用して発表する場合は、黒板等に張り付けて発表してください。
- ・パソコンで発表する場合は、PowerPoint で作成してきたものを、プロジェクターでスクリーンに投影して発表してください。
- ・配付資料で発表する場合は、1部を手元に置き、残りの2部を面接者に渡して発表してください。
- ・発表の際には、メモなどを見ても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】課題発表で使用する模造紙や資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で使える機器等について

①模造紙	○	79cm×109cm、2枚程度
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。持参しても構いません。 大学のパソコンを使用する場合は、Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 パソコンを持参する場合は、HDMI 端子のパソコンを持参してください。 VGA 端子等その他の端子のパソコンの場合は、HDMI 端子への変換ケーブル等を必ず持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を持参してください。
④配付資料	○	A4 用紙 3 部（面接者 2 部、受験生 1 部）

※ 「①」、「②・③」、「④」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

農 学 部

農学科

●阿蘇くまもと臨空キャンパス

〔1年次は主として「熊本キャンパス」を2年次以降は主として「阿蘇くまもと臨空キャンパス」を利用します〕

課題

下記の4つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 環境と農業のかかわりについて調べてください。また、安全で安定した食料生産のために何をすべきでしょうか？あなたの考えを述べてください。
- (2) 作物、果物、野菜、花、野生植物、昆虫、土壌など、勉強してみたいことについて調べ、その内容をまとめてあなたの考えを述べてください。
- (3) バイオテクノロジーまたはITの農業への応用について、どのような応用例があるか調べてください。また、今後、この分野がどのように発展していくと考えますか？あなたの考えを述べてください。
- (4) あなたはどのような目的で全国農業高等学校長協会認定のアグリマイスター顕彰に関連する資格取得や競技会活動に取り組んできましたか。具体的な資格や活動をあげて答えてください。またそれらの取り組みを通じて培った力を大学で更にどのように発展させていきたいですか。その理由も含めて述べてください。

＊課題作成にあたっては、必要に応じて本、新聞、雑誌、インターネットのホームページなどを参考にし、まとめ、文章の他に図、グラフ、表、写真などを加えることもできます。なお、参考にした資料については、出典を明記してください。

形式

- ・選択した課題番号を明記し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,600 字程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、32 字× 25 行）1,600 字程度
- ・参考にした文献（書名、著者名、出版社等）やインターネットで調べた情報（ホームページ名、URL 等）等のリストは別紙（A4 用紙）に明記してください。
- ・図表や写真などを用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめ、添付資料としてください。枚数制限はありません。
- ・参考文献は、指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・調べた内容だけでなく、あなた自身の考え方が記述されているか。
- ・調べた内容が具体的に記述されているか。
- ・文章中に誤字・脱字がないか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表の際は次の4つの形式のいずれかで発表してください。

- (a) 発表内容をまとめた模造紙（下表参照）をホワイトボードに貼りつけて発表する
- (b) PowerPointで作成してきた内容をパソコンとプロジェクター（下表参照）を用いて発表する
- (c) 発表内容をまとめた配付資料（下表参照）を用いて発表する
- (d) ホワイトボードに発表内容を板書して発表する

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	79cm×109cm程度、2枚以内
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。
		Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料も持参してください。
④配付資料	○	3部（A4用紙で5枚以内、面接者に2部、受験生の手元に1部）
⑤その他	○	板書（ホワイトボード、マーカ等は大学で準備）

※ 「①」、「②・③」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

農 学 部 動物科学科

●阿蘇くまもと臨空キャンパス

〔1年次は主として「熊本キャンパス」を2年次以降は主として「阿蘇くまもと臨空キャンパス」を利用します〕

課題

下記の4つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 動物、生物学あるいは環境に関して、あなたが勉強してみたい事項について調べ、その内容をまとめ、あなたの考えを述べてください。
- (2) 乳、肉、卵などの食材を提供する動物について、生産性や安全性、利用の持続可能性等に関する最近の話題や問題点を調べ、あなたの考えを述べてください。
- (3) あなたが興味を持っている動物を1つあげ、その動物とヒトとのかかわりについて現状と問題点を調べてください。また、今後その動物とより良い関係を築くために必要な事項についてあなたの考えを述べてください。
- (4) 全国農業高等学校校長協会認定のアグリマイスター顕彰に関連する資格取得や競技会活動で取り組んだことについて、大学で学びたいことや将来の夢と関連づけてまとめてください。

＊課題作成にあたっては、各自で調査を行うほか、書籍や新聞などの情報媒体を活用して調べてください。また、高等学校や個人などで実験や研究をしたことがある場合にはそのデータを用いて作成しても構いません。

形式

- ・選択した課題番号を明記し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,600 字程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、32 字× 25 行）1,600 字程度
- ・参考にした文献（書名、著者、出版社等）やインターネットで調べた情報（ホームページ名、URL 等）等のリストは別紙（A4 用紙）に明記してください。
- ・図表や写真などを用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめ、添付資料としてください。枚数制限はありません。
- ・参考文献は、指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・調べた内容が、科学的根拠に基づいて具体的に記述されているか。
- ・調べた内容に、あなたの意見や経験が具体的に反映されているか。
- ・文章の構成が、問題提起・展開・結論の流れで論理的に記述されているか。
- ・誤字・脱字が無く、正しく記述されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表の際は次の4つの形式のいずれかで発表してください。

- (a) 発表内容をまとめた模造紙（下表参照）をホワイトボードに貼りつけて発表する
- (b) PowerPoint もしくは PDF 形式で作成した内容をパソコンとプロジェクター（下表参照）を用いて発表する
- (c) 発表内容をまとめた配付資料（下表参照）を用いて発表する
- (d) ホワイトボードに発表内容を板書して発表する

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で使用できる機器等について		
①模造紙	○	79cm×109cm 程度、2 枚以内
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。
		Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンまたは PDF 形式で作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。万 one の場合に備え、スライドを印刷した資料も持参してください。
④配付資料	○	3 部（A4 用紙で 5 枚以内、面接者に 2 部、受験生の手元に 1 部）
⑤その他	○	板書（ホワイトボード、マーカ等は大学で準備）

※ 「①」、「②・③」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

課題

食生命科学科では、健康に関わる食料や食品成分の機能性の研究、発酵食品に用いられる微生物の有効利用、および遺伝子やタンパク質などの生命の仕組みの解明を通して、健康な生活を実現させる研究を行っています。これらの研究は農学のみならず、薬学、医学など幅広い分野に応用されています。

こうした食生命科学科の内容に関して、必要があれば学部案内などを参考にしながら、以下の3つの課題の中から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 高校の学習や課外活動等で行ってきた食や生命科学に関連する実験や研究について、大学で学びたいことや将来の夢と関連づけてまとめてください。
- (2) 興味を抱いた最近の食や生命科学に関連する話題に関して、大学で学びたいことや将来の夢と関連づけてまとめてください。
- (3) 全国農業高等学校長協会認定のアグリマイスター顕彰に関連する資格取得や競技会活動で取り組んだことについて、大学で学びたいことや将来の夢と関連づけてまとめてください。

形式

- ・選択した課題番号を明記し、必ずタイトルをつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,600 字程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、32 字× 25 行）1,600 字程度
- ・図表や写真などを用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数には含みません。
- ・参考にした文献（著者・書名・出版社・出版年）やインターネットで調べた情報（ホームページ名、URL など）などのリストは文章や図表とは別にして A4 用紙にまとめて明記してください。なお、それらのリストは指定された字数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・内容を的確に表現したタイトルになっているか。
- ・調べた内容が、科学的根拠に基づいて具体的に記述されているか。
- ・調べた内容に、あなたの意見や経験が具体的に反映されているか。
- ・文章の構成が、問題提起・展開・結論の流れで論理的に記述されているか。
- ・誤字・脱字が無く、正しく記述されているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表の際は次の4つの形式のいずれかで発表してください。

- (a) 発表内容をまとめた模造紙（下表参照）をホワイトボードに貼りつけて発表する
- (b) PowerPointで作成してきた内容をパソコンとプロジェクター（下表参照）を用いて発表する
- (c) 発表内容をまとめた配付資料（下表参照）を用いて発表する
- (d) ホワイトボードに発表内容を板書して発表する

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	○	79cm×109cm程度、2枚以内
②プロジェクター		大学で準備します。
③パソコン	○	大学で準備します。
		Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料も持参してください。
④配付資料	○	3部（A4用紙で5枚以内、面接者に2部、受験生の手元に1部）
⑤その他	○	板書（ホワイトボード、マーカー等は大学で準備）

※「①」、「②・③」、「④」、「⑤」の中であなたが選択したいいずれかの発表形式で準備してください。

国際文化学部

地域創造学科

●札幌キャンパス

■ 課題

- 下記の課題 (1) (2) について、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。
- (1) あなたは、あなたの住む市町村の職員だと仮定してください。市町村長はあなたに、その地域を元気にするためのアイデアを求めています。あなたはどのようなアイデアを提案しますか？
- (2) (1) で考えたアイデアを実行しあなた自身が役割を果たすために、地域創造学科で身につけたい力や知識について、将来の夢や希望、目標に関連づけて具体的に述べてください。

■ 形式

- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 字程度、3 枚程度
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 35 行）1,200 字程度、1 枚程度
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。図表の枚数は特に制限しません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- あなたの意見やアイデアが明記されているか。
- あなたの住む地域の実情（課題）が示されているか。
- 具体的な事例が明記されているか。
- あなたの役割が書かれているか。
- 論理的展開がなされ、結論が明解であるか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 10 分程度とし、それに対する質疑応答を 5 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 10 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表の際には、手元の資料として、第一次選考出願の際に提出した課題のコピーやメモなどを見ても構いません。補助資料として、課題をわかりやすくするためにまとめたもの（A4 用紙）を準備しても構いません。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター		
③パソコン		
④配付資料	○	A4 用紙で課題をわかりやすくするためにまとめたものを 2 部

■ 課題

下記の3つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 国際共通語とされる英語に関連するさまざまな事柄の中で、あなたが最も関心を寄せるテーマを1つ取りあげ、その内容をまとめ、あなたの意見をつけ加えてください。テーマとしては、例えば、「アメリカとイギリスで使用されている英語の比較」、「企業における社内公用語としての英語について」など、具体的かつ柔軟に考えてください。
- (2) アジアの歴史や文化に関連するさまざまな事柄の中で、あなたが最も関心を寄せるテーマを1つ取りあげ、その内容をまとめ、あなたの意見をつけ加えてください。テーマとしては、例えば、「中国の食文化について」、「韓国の映画や音楽について」など、具体的かつ柔軟に考えてください。
- (3) 欧米の社会や生活環境に関連するさまざまな事柄の中で、あなたが最も関心を寄せるテーマを1つ取りあげ、その内容をまとめ、あなたの意見をつけ加えてください。テーマとしては、例えば、「アメリカのプロ・スポーツについて」、「ヨーロッパの建物や町並みについて」など、具体的かつ柔軟に考えてください。

■ 形式

- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 字程度、3 枚程度
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、40 字× 35 行）1,200 字程度、1 枚程度
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- ・課題作成に使用した書籍やインターネットサイトなどは必ず参考文献として明記し、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は、指定された字数には含みません。

■ 課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・示す理由や選ぶテーマが曖昧だったり抽象的だったりせず、明確で具体的なものになっているか。
- ・理由やテーマにかかわる客観的な事実や数値データなどが、きちんと調べられているか。
- ・調べた結果だけでなく、あなたの意見も明記されているか。

■ 第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて25分程度行います。課題発表は10分程度とし、それに対する質疑応答を5分程度及び面接試験（口述試験含む）を10分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

発表に際しては、第二次選考のプレゼンテーション用に自ら工夫して模造紙にまとめた補助資料（図表など）を用いることができます。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	○	プレゼンテーション用にまとめた資料（図表など）2枚程度
②プロジェクター	×	
③パソコン		
④配付資料		

生 物 学 部

生物学科

●札幌キャンパス

課題

下記の2つの課題から1つを選び、所定の形式に沿って作成したものを提出してください。

- (1) 高等学校の課題研究や課外活動などで実施した、生物学に関連した内容の研究・実験の内容をまとめてください。課題は、生物の教科書で取り上げられているテーマに限らず、生き物調査や生物と産業とのかかわりなどでも構いません。提出する課題には、課題名、研究や実験の目的、調査方法や実験方法、得られた結果、考察や結論などを記述してください。
- (2) 生物学に関連した分野から興味を持ったテーマに関して、複数の資料（本、雑誌、新聞、インターネットのホームページなど）を調べてまとめ、あなたの意見を述べてください。課題は、生物の教科書で取り上げられているテーマに限らず、自分の身近な問題や、世界的な問題などでも構いません。あなたと異なる立場の意見も紹介し、それに対するあなたの意見も記述してください。参考にした資料（参考文献）は、文章や図表とは別にまとめてください。

形式

- 必ずタイトルをつけてください。
- 手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）1,200 ～ 2,000 字程度、6 枚以内
- パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字× 35 行）1,200 ～ 2,000 字程度、2 枚以内
- 図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含みません。
- 参考文献は文章や図表とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献は指定された字数・枚数には含みません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

共通評価ポイント

- 課題の内容を的確に表したタイトルがつけられているか。
- わかりやすい正しい文章で書かれているか。

課題（1）についての評価ポイント

- 選んだ研究や実験について、その目的や背景がわかりやすく述べられているか。
- 方法、結果、考察に矛盾はないか。

課題（2）についての評価ポイント

- あなたの意見を述べるために、調べた内容が適切に使われているか。
- あなたの考えが、経験したことを例にあげるなどしてわかりやすく述べられているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表〈プレゼンテーション〉（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 7 分間（6 分～ 7 分、時間厳守）とし、それに対する質疑応答を 3 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 15 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- ①発表は原則としてパソコンを使用してください。
- ②発表時にはメモを使用することはできますが、原稿の棒読みは避けてください。
- ③Microsoft PowerPoint（Windows 版 2016 以降のバージョン）に課題内容をまとめ、ノートパソコン（Windows）を用いて発表します（スクリーンや壁に投影しながらの発表となります）。ノートパソコンと液晶プロジェクターは大学で準備しますので、作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。なお、データ消失などの万一の場合に備えて、内容を A4 用紙に印刷して 3 部持参してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表〈プレゼンテーション〉で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を 3 部持参してください。
④配付資料	×	

生物学部 海洋生物科学科

●札幌キャンパス

課題

海洋生物科学科では、環境・生態科学として海洋や河川に生息する水圏生物の生理・生態やそれを取り巻く環境について学修します。また、水圏生物を人間が利活用するための水産科学も主要なテーマとなります。

下記の3つの課題から興味のあることを1つ選び、4,000字程度で課題を作成し提出してください。必要ならば図表を添付してください。

- (1) 海洋や河川、湖沼などにかかわる環境問題を1つあげ、どのようなことがどこで起こっていて、何が問題なのかを具体的に説明し、その問題の解決策や防止に対する取り組みについてあなたの考えを書いてください。
- (2) あなたが興味を持つ海や淡水の生物を1つあげ、その特徴、生態、飼育方法などを紹介してください。更に、興味を持った理由や実際にあなたが飼育する場合に考えられる問題点を指摘し、具体的な解決策をあなたなりに考えて書いてください。
- (3) 日本国内における増養殖の方法を1つあげ、どこでどのような増殖または養殖が行われているかを紹介し、その増養殖が抱える問題点を指摘し、その解決策をあなたなりに考えて書いてください。

形式

- ・選択した課題番号を明記し、課題の内容を簡潔に表すタイトルを必ずつけてください。
- ・手書きの場合：A4 原稿用紙（ヨコ書き、20 字× 20 行）4,000 字程度、12 枚以内
- ・パソコン等で作成する場合：A4 用紙（ヨコ書き、35 字× 35 行）4,000 字程度、4 枚以内
- ・図表を用いる場合は、文章とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、図表は指定された字数・枚数には含まれません。
- ・参考文献とインターネットの Web サイトの URL は文章や図表とは別にして A4 用紙にまとめてください。なお、参考文献とインターネットの Web サイトの URL は指定された字数・枚数には含まれません。

課題についての第一次選考での主な評価ポイント

- ・日本語表現が適切であるか。
- ・課題が求めている内容を十分満たしているか。
- ・課題について調べた内容が、あなたの言葉で表現できているか。
インターネット上の文章、本や雑誌の丸写し、もしくはそれに近いと判断される内容については減点の対象となります。
- ・課題に対してあなたの意見や考えが述べられているか。

第二次選考について

第二次選考では、上記課題についての「課題発表（プレゼンテーション）（質疑応答含む）」及び「面接試験（口述試験含む）」を合わせて 25 分程度行います。課題発表は 7 分間（6 分～ 7 分、時間厳守）とし、それに対する質疑応答を 3 分程度及び面接試験（口述試験含む）を 15 分程度行います。

口述試験内容は、p. A-10『口述試験要領』を参照してください。

- ①発表は原則としてパソコンを使用してください。
- ②発表時にはメモを使用することはできますが、原稿の棒読みは避けてください。
- ③Microsoft PowerPoint（Windows 版 2016 以降のバージョン）に課題内容をまとめ、ノートパソコン（Windows）を用いて発表します（スクリーンや壁に投影しながらの発表となります）。ノートパソコンと液晶プロジェクターは大学で準備しますので、作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。なお、データ消失などの万一の場合に備えて、内容を A4 用紙に印刷して 3 部持参してください。

【 必：必須 ○：可能 ×：不可 】 課題発表で使用した資料等は回収しませんので、各自必ず持ち帰ってください。

第二次選考の課題発表（プレゼンテーション）で利用できる機器等について

①模造紙	×	
②プロジェクター	必	大学で準備します。
③パソコン		大学で準備します。 Windows 版の PowerPoint2016 以降のバージョンで作成したファイルを USB メモリに保存して持参してください。 万一の場合に備え、スライドを印刷した資料を 3 部持参してください。
④配付資料	×	

活動報告書

中学校卒業後の活動について、該当する箇所を記入してください。
※記入上の注意をご確認ください。

フリガナ		男・女	出身高校名	
氏 名				高校
志 望	学 部	学 科	専 攻	

- ・黒のボールペンまたはHBの黒芯シャープペンシルで記入してください。
- ・黒のボールペンで記入し内容を訂正する場合は、修正液等で消して再度上から記入してください。

【1】「体育・文化・芸術活動」について

クラブ名 団 体 名	校内・校外・ 所属なし いずれかを○で囲む		役 職	
〈活動内容について〉				
〈活動結果について〉				
出場大会や出展、発表会名等		成績（順位・賞等）	開催年月（西暦）	
			年 月	
			年 月	
			年 月	
			年 月	

【2】「生徒会・委員会・クラスの係に関する活動」について

団 体 名		役 職	
〈活動内容について〉			

【3】「社会貢献に関する活動」について（地域のボランティア活動に参加等）

〈活動内容について〉

氏名	
----	--

【4】「資格取得」について

資格名（団体名）	段・級・スコア等	取得年（西暦）
		年
		年
		年
		年

【5】「留学・渡航経験」について

留 学 関 係	学校所在国名	学校名	在学状況（西暦）		修学期間
		国立 公立 私立	年 月	入学・編入学	年 か月
			年 月	卒業・卒業見込・修了・修了見込・中退	
		国立 公立 私立	年 月	入学・編入学	年 か月
			年 月	卒業・卒業見込・修了・修了見込・中退	
渡 航 経 験	国名	渡航期間（西暦）		目的等	
		年 月 ～ 年 月			
		年 月 ～ 年 月			

【6】「その他の活動」について

〈活動内容について〉

■【1】～【6】に記載した活動のうち1つについて、その活動をとおして得られた経験や知識、感じたこと等を自己アピールしてください（必ず記入 200字以内、ヨコ書き）。

[illegible]

スポーツ活動報告書 (体育学部志願者のみ)

中学校卒業後の活動について記入してください。
※記入上の注意をご確認ください。

このスポーツ活動報告書は、出身校または所属クラブで厳封してください。

東海大学

学 長 殿

学 校 名
(スポーツクラブ名等)

学 校 長 名
(クラブ代表者名)

記載責任者氏名

2024 年 月 日

印 印

学校外でのクラブ活動等の場合で、クラブ印がない場合はクラブ代表者の私印を押印し、さらにクラブ印なしを○で囲んでください。

クラブ印なし

貴学体育学部を受験する者のスポーツ活動歴は下記のとおりです。

フリガナ	氏 名	男・女	(西暦)	年 月 日生 (歳)
所属クラブ名 (必修クラブを除く) スポーツ名	校内・校外・所属なし いずれかを○で囲む	種 目 ポジション	※種目・ポジションがない場合は、「特になし」と記入してください。	

スポーツ活動歴

本人が出場し、最も顕著な成績を収めた大会を1つ記入してください。
※スポーツ活動歴がない場合は、「②出場大会名(含種目)」に「出場記録なし」と記入してください。

① 大会レベル (記号に○をつけてください)

A. 国際大会 B. 全国大会 C. 地区ブロック大会 D. その他

② 出場大会名 (含種目)	年月 (西暦)	成績 (順位)	公認記録
※スポーツ活動歴がない場合は、「特になし」と記入してください。	年 月		※公認記録がない場合は、「特になし」と記入してください。

スポーツに関する主な取得資格

※具体的な取得資格がない場合は、「特になし」と記入してください。

種目等	資格の種類	取得年 (西暦)
		年
		年

クラブ活動
総合所見

経験した役割を○で囲んでください 主将 ・ 副主将 ・ 主務 ・ 他 ()

※できるだけ具体的に記入してください。総合所見がない場合は、「特になし」と記入してください。

その他、体育・スポーツに関する活動歴

※できるだけ具体的に記入してください。その他の活動歴がない場合は、「特になし」と記入してください。

(注1) 黒のボールペンで記入してください。

(注2) 内容を訂正する場合は、修正液等を使用せず二重線を引いて訂正印を押印のうえ、その上段または下段に記入してください。

■ 記入上の注意「スポーツ活動報告書」

体育学部志願者のみ提出してください。スポーツ活動報告書の作成は、以下に沿って出身校または所属クラブに依頼してください。所属クラブは、学校内に限定しません。スポーツ活動歴がない場合でも必ず作成し、提出してください。

中学校を卒業した年の4月1日以降のスポーツ活動について記入してください。

- ・必ず出身校または所属クラブで厳封してください。
- ・黒のボールペンで記入してください。
- ・内容を訂正する場合は、修正液等を使用せず二重線を引いて訂正印を押印のうえ、その上段または下段に記入してください。

- A** (1) 学校内でのクラブ活動等の場合は、出身校に作成を依頼してください。学校名、学校長名、記載責任者氏名を記入し、各々に必ず押印してください。
なお、学校長の印は校印を用いてください。
- (2) 学校外でのクラブ活動等の場合は、所属クラブに作成を依頼してください。スポーツクラブ名等、代表者名、記載責任者氏名を記入し、各々に必ず押印してください。
なお、代表者の印は、クラブ印がある場合は必ずクラブ印を押印してください。ない場合は代表者の私印を押印し、その横の「クラブ印なし」を○で囲んでください。
保護者が代表者となる場合は、学校長名（クラブ代表者名）欄に記入・押印してください。
- (3) スポーツ活動歴がない場合は、学校の担任の先生等、第三者に作成を依頼してください。その際、学校長名（クラブ代表者名）欄に記入・押印してください。

B 氏名は楷書で、フリガナは必ずカタカナで明瞭に記入してください。

C 男・女のいずれかを○で囲み、生年月日・年齢を記入してください。

D 所属クラブ名は、クラブの所在(校内・校外・所属なしのいずれかを○で囲む)とその所属クラブ名、種目・ポジションを記入してください。

校内のクラブの場合、高校名ではなくスポーツ名を記入してください。

E スポーツ活動歴は、本人が出場（もしくはベンチ入り）し、最も顕著な成績を収めた大会を1つ記入してください。「①大会レベル」「②出場大会名（含種目）・年月（西暦）・成績（順位）・公認記録」の項目を必ず記入してください。
公認記録がない場合は、「特になし」と記入してください。

「成績（順位）」の項目には、入賞（優勝・準優勝）等の結果がない場合でも、「出場」「二回戦出場」等と必ず記入してください。
なお、登録選手としてベンチ入りし、出場する機会がなかった場合でも選手としてみなします。その際は、「クラブ活動総合所見」にその旨を記入してください。

(例) A. 国際大会：日本代表として出場した大会等

B. 全国大会：全日本選手権大会、全国高校総合体育大会、国民体育大会等

C. 地区ブロック大会：全国高校総合体育大会ブロック大会、国民体育大会ブロック大会、都府県を代表して出場した大会等

D. その他：上記（A、B、C）以外の大

上記のスポーツ活動歴がない場合は、「②出場大会名（含種目）」に「出場記録なし」と記入してください。

F スポーツに関する主な取得資格については、本人が所持する柔道・剣道の段位やスキースキの級別テスト等、主なものを2つまで記入してください。

具体的な取得資格がない場合は、「特になし」と記入してください。

G クラブ活動総合所見はできるだけ具体的に記入し、経験した役割を○で囲んでください。

記載する総合所見がない場合は、「特になし」と記入してください。

H その他、体育・スポーツに関する活動歴は、学校の体育授業における様子やボランティア経験等を含め、できるだけ具体的に記入してください。

具体的な活動歴がない場合は、「特になし」と記入してください。

注意 記載内容を証明する書類等の提出を求める場合があります。

厳封

2025年度東海大学 総合型選抜学科課題型 ③
スポーツ活動報告書
 （体育学部志願者のみ）

整理番号
 (記入不要)
 中学校卒業後の活動について記入してください。
 ※記入上の注意をご確認ください。

このスポーツ活動報告書は、出身校または所属クラブで厳封してください。

東海大学		2024 年 月 日	
学 校 名 (スポーツクラブを指す)	学 校 長 名 (クラブ代表者名)	印	学校外でのクラブ活動等の場合は、クラブ活動歴がない場合は「特になし」と記入してください。 ※記入の際、クラブ活動歴がない場合は「特になし」と記入してください。
記載責任者氏名		A	印
貴学体育学部を受験する者のスポーツ活動歴は下記のとおりです。			
フリガナ	氏 名	性 (男・女)	年 月 日生 (歳)
所属クラブ名 (必ず所属クラブを記入) スポーツ名	校内・校外・所属なしのいずれかを○で囲む	種 目 ポジション	※種目・ポジションがない場合は「特になし」と記入してください。
E スポーツ活動歴 本人が出場し、最も顕著な成績を収めた大会を1つ記入してください。 ※スポーツ活動歴がない場合は、「②出場大会名(含種目)」に「出場記録なし」と記入してください。			
① 大会レベル (記号に○をつけてください) A. 国際大会 B. 全国大会 C. 地区ブロック大会 D. その他			
② 出場大会名 (含種目)		年月 (西暦)	成績 (順位)
※スポーツ活動歴がない場合は、「特になし」と記入してください。		年 月	※公認記録がない場合は、「特になし」と記入してください。
スポーツに関する主な取得資格 ※具体的な取得資格がない場合は、「特になし」と記入してください。			
項目等	資格の種類	取得年 (西暦)	生 年 月 日
F			
クラブ活動 総合所見	経験した役割を○で囲んでください。 ※できるだけ具体的に記入してください。総合所見がない場合は、「特になし」と記入してください。		
G			
その他、体育・スポーツに関する活動歴	※できるだけ具体的に記入してください。その他の活動歴がない場合は、「特になし」と記入してください。		
H			

(注1) 黒のボールペンで記入してください。
 (注2) 内容を訂正する場合は、修正液等を使用せず二重線を引いて訂正印を押印のうえ、その上段または下段に記入してください。

